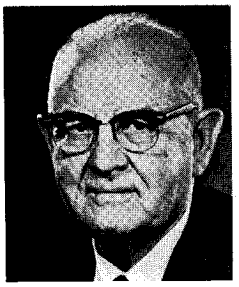
聖 徒 の 道　1970年5月20日発行（毎月1回20日発行）第14巻 第5号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 1970 5

特集記事—はじめに



心の糧

十二使徒評議員会会長代理
スペンサー　W. キンボール

何百万の人々が愛する者の棺を前にして繰返し尋ねてきたのは，ヨブと同じ次の質問であった。「人がもし死ねば，また生きるでしょうか。」（ヨブ14：14）これに対して，人はまた生きるという答えが無数の人々に与えられ，天の露のごとくに豊かな平安が訪れている。そしてその平安が，いくたびか悲しみに疲れた心をやさしく慰めてくれた。

静かな平安がなげき悲しむ心に新たな喜びの確信をもたらした時に，その無数の人々は主に愛されたヨブと共に次のように言うことができた。「わたしは知る，わたしをあがなう者は生きておられる，末の日に彼は必ず地の上に立たれる。わたしの皮のうじがこの体を滅ぼしたのち，わたしは肉にありて神を見るであろう。しかもわたしのこの目で見るであろう。……」（欽定訳ヨブ19：25―27）

ヨブはその証が次代の人々に読まれるべく書物に記され，石に刻まれることを望んでいた。ヨブの望みはかなえられた。なぜなら，彼の強い証を読む時，多くの人々の心に平安がもたらされてきたからである。

―― もく じ ――

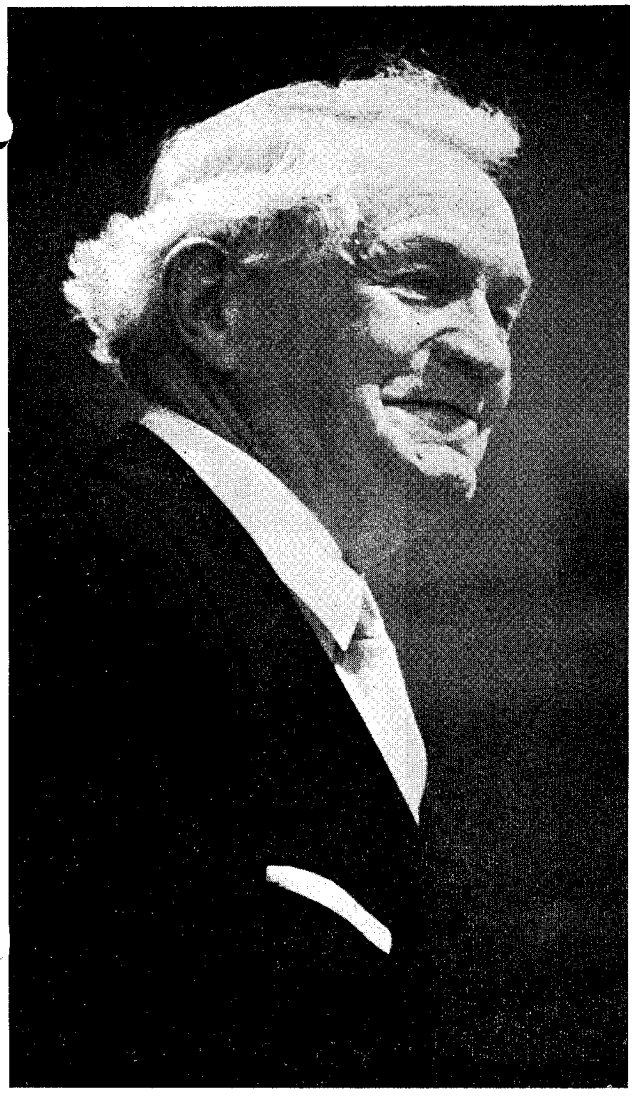
予言者のことば
大いなる喜びと感謝……故デビド　O. マッケイ大管長… 117
はじめに……編集副主幹　ジェイ　M. トッド… 119
管理監督のページ
幻覚剤……ジョン　H. バンデンバーグ… 132
愛の実践……コニー・チャップマン… 133
日曜学校
日曜日こそ，その日です……エスナ　R. リード… 134
わたしの息子を教えるとき……E. LV. リチャードソン… 136
共に進歩する幸福な結婚……J. ジョエルおよびオードラ　コール・モス… 139
ローカルニュース…… 142
教育――その目的は？……リチャード　L. エバンズ…裏表紙

子供のページ

あきらくんのえらんだもの……サラ　L. ジョンソン……14
自分にはずかしい行ない……ロウェル　L. ベニオン……15
あなたはどっち？……16
さとるくんの夢……ルシール　C. リーディング……17

今月の表紙

今月の表紙は獣と鳥の創造をあらわした新しい絵の一部である。これはスタンレー　W. ガリーによって描かれ，他に五枚の絵が今月号に載せられている。これらの絵はミズーリ州，インデペンデンスの訪問者センターをはじめ，各地で使われることになっている。



大いなる喜びと感謝

故デビド　O.　マッケイ　大管長

一般に教会の会員と多くの人々が，物質のみが幸福を与えるのではないという事実を悟って，以前に増して最も価値ある事柄を認めていることを知り感謝に耐えない。私はこれらの最も価値あるものを友と共に享受できることを喜んでいる。二，三の事柄を挙げて私の心からの感謝を申し述べたいと思う。

1. 立派な家柄と名前

家族は名前を与えて子供を社会へ出す。子供は自分の家庭が友人のそれと同じように立派なものであってほしいと願う。子供は父親を誇りに思い，母親を見る時はいつも心を励まされることができたらと願う。子供が母親のあらゆる美しさ，やさしさ，純粋さに親しめるような生活をするのは母親の務めである。また，息子に立派な名前を与えることができるように生活するのは父親の務めである。

模範は教訓よりもはるかに説得力がある。両親は子供たちをどのように成長させるかという責任を負

っている。私はそのような責任を負って下さった私の両親に深く感謝している。

2. 神とイエス・キリストに対する確固たる信仰

神を信んずることは，個人個人のものであることは言うまでもない。それはあなたがたのものであると同時に私のものであり，実際には心の底から湧きでるものにちがいない。この意味で，私はキリストへの信仰，すなわち人の宗教と目標を決める信仰を，世の中で最も大切なものとしているのである。それは行動を促す力であり，人間の生活においてあらゆる原動力となるべきものである。

ナザレのイエスを神の御子として受け入れる者，イエスが今日も生きたまい，世に影響を及ぼしたもうことができると心から信んずる者にとって，キリストの教えと同じくキリストの人となりもまた現実のものとなる。

3. 自然の中にあらわれている神の賜物を享受する能力と機会

創造されたあらゆるうつくしいものは，ただ眺め，求めるためのものではなく，私自身のものでもある。私は南海の水と陸地のすばらしい色彩，植物の生き生きとした色合，動物の生態を見たことがある。私は教会の責任を通して六つの大陸を訪れて，人間に対する神の豊かな恵みを見た時に驚きの目を見はったものである。

私はユタ州ハンツビルの我が家の農場で，私の息子たちに真直ぐなうねをひき，苗床の適切な準備をし，良い種をまき，穀物の新芽を見守ることを教えながら，胸のときめきを覚えた。私の父が私に教えたと全く同じに，息子たちと並んで作物の世話をし，一つ一つのさやが充分に実っているかどうかを調べ，収獲へと黄金色に変りゆく畑を眺め，刈入れをしたものである。

4. 愛に満ちた家族関係——愛する人と誠実な友

一人の友を持つ者でさえ富める者であるのに，私には真実で誠実な友が多い。

幸福に至る道を選んでしあわせになるのは人の特権である。幸福になるまことの基は家族と家庭の中にある。家庭は愛によって永遠のものとされる。快い満足感にみたされた永遠の家庭は国家の力である。しあわせな個人個人が私欲をはなれて生活し，喜んで分かち合ってこそ，家庭は幸福なものとなる。みちたりた，平安な家庭が平和な発展の地域社会を作り出し，このような地域社会がこぞって平和な繁栄する国家を築き上げるのである。

規律正しい，よくおさめられた家庭により現代文明は永続する。

人生の全盛時は，肉体を清く保ち，心身の感覚をとぎすまし，あらゆる善いもの美しいものを認める時にある。すなわち，神が与えたもうたあらゆるものを喜ぶことができ友を持ち，また友となり同時に家族を持つ時に存在するのである。

5. キリストの教会で有益な奉仕をする機会，とりわけ，親切で愛にみちたもう天父が，心から求める者すべてに，よき導きを与えたもうことを知ること

人生で最も価値のある召しとは，人がその同胞に最も仕えることのできる召しである。

人生で最も気高い目的とは，他人の生活をより良く，しあわせにしようと努力することである。我々がこの世を去る時，たずさえて行くことのできる二つのものは，奉仕と人格だけである。末日聖徒イエス・キリスト教会をおいて他に，これほど効果的に奉仕できる組織を思い起こすことができるであろうか。しかし，実際には，我々は謙遜で真剣な祈りにより，天父のお助けをつねに求めねばならない。天父はこの地上における教会の業と主の僕としてそれを行なう我々に深い関心を寄せておられる。これらとその他数々の祝福のために，私の心は感謝に満ち，大いなる喜びを表わす次第である。

はじめに

編集副主幹
ジェイ M. トッド

「はじめに神は天と地とを創造された」（創世記１：１）創世記の冒頭にあるこのわずか一行の文章ほど，全世界の人々に読まれ，人々の心を奮いたたせた文章は，歴史を通じていまだかつてないであろう。この言葉には読者を思わず先へ進ませる不思議な力がある。「地は形なく，むなしく，やみが淵のおもてにあり，神の霊が水のおもてをおおっていた。神は『光あれ』と言われた……」（創世記１：２～３）

地球の状態をミクロに一方ではマクロに探究している今日にあって，我々は再び神の創造物の偉大さに思いを馳せ，神の御手になる創造の業に目を向ける必要があると思われる。事実，末日聖徒は，自らの周囲にある世界のあらゆるものを知るようにとの励ましを常に受けてきた。「汝ら熱心に教えよ。……天にも地にも地の下にも関わりあること，またすでに起りたること，今有ること，近く必ず起らんとすること…」（教義と聖約88：78～79）

人が神の創造物について知識を深めれば深めるほど，神への尊敬，信頼，愛が深まることは疑いを入れないであろう。それ故，本号では，信仰と知識を尋ね求める人々，周囲の世界について学び，調べ，教えることに時間を費している兄弟たちに援助を求めた。次頁以降に末日聖徒の学者30名から得た意見を載せた。これらは知識においても霊感の面においても秀れた論評である。

論評と共に七枚の絵を載せたが，六枚はスタンレー W. ガリー，一枚はハリー・アンダーソンの作品である。両者共アメリカ一流の画家である。アンダーソン氏は創造主イエスを描き，ガリー氏は六枚からなる創造の段階を描いた。本書に掲載の絵は，教会広報部の好意により複写した。これらの絵は，かのモーセに「神が造ったすべての物を見られたところ，それは，はなはだ良かった」（創世記１：31）と書かしめた美しさを物語るようである。

読者がこの記事から喜びと証を得られればと願う次第である。

銀河系宇宙

「大空は光の広い帯にとり巻かれており，その扁平な円盤状の中にある地球から我々はその広い帯を見，天の川と呼んでいる。太陽とその惑星は円盤状のへりに位置しており，秒速160km以上の速度で銀河系の周りを回っている。しかし，この宇宙は非常に広大で，太陽が銀河系の回りを一回転するのに約２億年を要する。我々の見る太陽は銀河系を構成する約一千億の恒星（太陽）の一つである。太陽の放つ一条の光が銀河系を横切るには，10万年を要する（光の秒速は地球七周半である）。我々が空に見ることのできるほとんどすべて，すなわち恒星，惑星，彗星，星雲は，銀河系宇宙に属している。目の良い人なら，星の中にボーッと光る雲のような点を見ることができる。それは，大きさにおいて我々の属している銀河系に匹敵し，宇宙のはるか彼方にある他の宇宙の存在を表わしている。少くとも数億の銀河系外星雲があると知られているが，はてしなく広汎な広がりをもっており，我々の想像を絶する。ある銀河系外星雲は50億光年（7768×10^{19}km）の彼方にあり，なおもその先に宇宙がある。すでに10億光年の彼方に位置するいくつかの銀河系外星雲が発見されている。この意味で，天文学は，最も不可解な考古学の分野に入ったのである。というのは現在我々が見ている彼方の天体とは，遠い過去の姿であって，今どんな状態であるかは，全くわからないのである。」

インディアナ大学天文学部，ホリス R. ジョンソン

宇宙の生命

「半世紀前まで，科学者は地球のような他の惑星に生物の存在する可能性はほとんど無に等しいと推論していたが，今や我々の銀河系には100億の惑星を持つ恒星があり，全宇宙には100億以上の銀河系外星雲があろうと考えられている。数年前まで，科学界はこの可能性を否定していた。しかし，現在，科学者はそれらの惑星のいくつかには理性を持った生物が存在していることはほとんど確実だとしている。そして電波望遠鏡でそれらの生物から送られて来る合図を待ち受けている。」ブリガム・ヤング大学物理学部長，ジョン　H．ガードナー

「今日の科学界では，宇宙のどこかに理性を持つ生物の存在しているであろうことが信じられている。事実，科学者たちは，それらの生物からの発信音を聴取する方法の発見に取り組んでいる。もし，科学者が我々よりも秀れた社会を持つ理性ある生物の存在を信じることができるとすれば（モーセ7：30，36参照），体を持ちたもう神が存在し，神の形にかたどって我々が創造され，なおかつ神は我々すべてよりはるかに秀れておられるという我々末日聖徒の論理が決して空論ではないということを信じられよう。」
クリーブランド州立大学化学部　アール　M．モーテンセン

地球の創造

「太陽系の創造が着手された時，星と星との間の宇宙空間にある希薄なガスから広大な冷たい雲が形成された。その雲の比重は高く，互いの引力が影響し始めて雲は回転し，その結果円盤形になり，多くの小さな雲に分かれ，太陽系の中心にある太陽と共に惑星を形成した。この時，『地は形なく，むなしく，やみが淵のおもてにあった。神は「光あれ」と言われた。すると光があった』太陽は絶えまない収縮作用により熱せられ，輝き始めた。太陽は地球を照らし，『光とやみとを分けた』（創世紀1：2～4参照）

太陽の放熱により，地上での生活が可能になるが，その太陽は，非常な出力を持つ火焔状のガス球で，毎秒400万トン以上の放射物がある。しかも太陽の貯蔵エネルギーは莫大であるため，現在の調子で100億年間の放熱が可能である。

地球は固体あるいは液体として形成されて間もなく，太陽によって熱せられ，地殻の放射能はほとんど（おそらく全部），大気中へガスと共に消えた。その後，地球が冷却されるに従って，ガスが地殻や地殻内部から放出された。地球の周囲に残っていたガスはやがて冷却されて大気を形成し，あるいは雨となって降り注ぎ海を形成した。」インディアナ大学天文学部，ホリス　R．ジョンソン

「地球の形成に関するいくつかの科学理論に共通して言えることは，惑星ははじめに，『形なく，むなしく』あったであろうということである。創世記に創造の次第が記されているが，これは科学的論点と一致している。すなわち，大空を造るに十分な大気があり，地殻の水から大気の水蒸気が分離し，太陽，月，星が見えるように，しゃへいしていた雲が縮少し，植物が成長し，魚，鳥，家畜が創造された後，人間が造られた。」ワシントン州立大学園芸学助教授　ダーレル　R．ビーンツ

「地球は，気候の移り変わりを促し，生命を維持するに必要なエネルギーを受ける上で，太陽から理想的な位置にある。しかし，太陽のエネルギーが突然燃えあがったとしたら，人間は焼け死ぬのを免れ得る位置にあるかといえば，そうではない。地球は軸を中心にしてほどよい速度で自転し，人間や他の生物の活動と休息に適度な長さの昼と夜を造り出している。けれども，規則正しく日や年が移ること以上に注目すべきことは，軌道面に対する地球の自転軸の傾斜である。軌道面に対して地軸が23.5度傾斜して太陽の周りを公転するよう組み立てられていることにより，四季が必然的にもたらされる。この傾斜がないと，赤道は極端な暑さに，極地は極端な寒さに見舞われることになるであろう。」アリゾナ州立大学地理学助教授　メルヴィン　J．フロスト

光

「聖典に数多く光に関する記述があるのは私にとって驚きに価するところである。神はこの驚くべき実体についての完全な意味を理解しておられる。人間はこのわけのわからぬ現象に含まれるいくつかの秘密を解くのにかなりの時間を要した。ニュートン，アインシュタイン，デブロイ，マックスウェル等は，この問題と取り組み，これを基礎にして現代の量子力学が確立されたのである。」テキサスA&I大学保健衛生学部長　エルドン　D．ブリンレイ

水

「自然の作用において水ほど重要な物質はない。自然界の

1.（イエス・キリストの絵）

これらの者の中に，神の如き者一人立ちて共に在りし者たちに言いけるは，われら降り行かん。かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて，これらの者の住まうべき地を造らん。然り而して主宣いけるは，いざわれら降り行かん。神々最初に降り行きたまえり。而して彼ら，すなわち神々は，天と地とを組織し形造りたまえり。

（アブラハム　3：24，4：1）

溶剤として水の上に出るものはない。水は地球の無機成分から植物の栄養素を分解し，生物の細胞の有機成分，無機成分を分解する。水の溶解作用が無いとしたら生命を維持する作用は止まってしまうであろう。水は気温を急変させずに熱を吸収あるいは発散させる秀れた力を持っている。このように，気候をやわらげる作用をするのである。他の物質は結晶する時に収縮するが，水は膨張する。その結果氷は湖や川の水面に浮き，絶縁体の役割を果たして，水中に住む生物を氷結から保護する。あらゆる液体の中で，水の沸点は非常に高い。沸点が低いならば，水蒸気が大気に充満し，太陽の熱線を吸収してしまうであろう。いかなる物質も水に代って生物の必要を満たすことはできないのである。」パーデュー大学土壌化学教授　フィリップ　F．ロウ

「水が液体で存在していることを考えていただきたい。この状態は，太陽系の広い温度区域のうち，わずかの区域にしか存続しえず，なおかつ，生命はこの液体がないと存在しえないのである。」ウィスコンシン大学地質学，地球物理学教授　デビド　L．クラーク

土壌

「土壌は単なる不活性粒子や機能を停止した有機物の集合体ではない。土壌の骨子を構成する大きな泥や砂以外に，土壌は粘土粒子で構成されている。これらの粒子はほとんど拡大鏡でしか見えない大きさではあるが，単位重量あたりの表面積は非常に大きい。粘土粒子の表面は水を強くひきつけ，その結果，植物の根の吸収力以上の雨水が流失するのを防いでいる。しかし，これだけではない。他の無機成分とは異なり，粘土粒子は負電荷を帯電して形成されるのである。この負電荷は植物の正電荷を帯びた栄養物をひきつけ，水の浸透により栄養物が土壌から吸い取られるのを防いでいる。土壌はまた微生物に富んでいる。これらの微生物は有益な役割を果たしている。つまり，秋の堆積を分解し，分解された堆積に蓄積して植物の結実を助け，結局植物は堆積を生じる。その過程で，腐植が土壌に加えられて粒子が合体し，水と空気の浸透を可能にする。」　パーデュー大学土壌化学教授　フィリップ　F．ロウ

植物

「もし，植物や花が無かったら，空気中の酸素は何十年かでなくなり，我々は死ぬであろう。現在，空気中に酸素があるただ一つの理由は，人間が空気中から取ってしまった酸素を植物が再生することである。植物はこれを光合成によって行なう。また人間の身体に有害な雑草でさえもこの光合成を行なう。さらに植物は光合成によって太陽エネルギーを捕え，我々の食べる食物にそれを注入する。他の生物と同じく我々の身体は生存するために絶えずエネルギー源を必要としているが，これがエネルギー源である。事実，我々の食べる食物を構成している化合物も空気中の炭酸ガスから誘導される。植物はこの炭酸ガスを吸収し，ショ糖が合成される。」カンサス州立大学生物学助教授　ジェームス　A．ゴス

「植物の種子一つをとってみても，今まで多くの考察を試みてきたにもかかわらず，依然として不可解ななぞである。生あるものが，遺伝子を決定し，生命を凝縮し，活動を停止した後，再生するということは，いかに鋭い頭をもってしても不可能である。」ユタ大学医学部産婦人科　マックス　L．スウィート

動く生き物

「家畜という言葉は，反すう（これにより反すう動物は人間には消化できない繊維質飼料を処理，消化する）をする種から驚くべきほど多様の種類に至るまでの奇跡とも言うべき意味あいを持っている。この種類については，人間にとって各種の環境，時期，特定の目的が必要なことにも応用できる。たとえば，スコットランド高地の羊や他の種類の羊は，烈風地，寒地，飼料の乏しい地にも順応してきた。ジーブー種は熱，乾燥，昆虫に強い。大きい牛は人を乗せて大河を渡り，水牛はインドや東洋で稲田を耕している。草原の王者アメリカ長角牛は，近代農耕により牛が不必要になるまで，保護に人々の心血が注がれたが，その後，乳牛が人々の母となった。もし家畜がいなかったら，我々はどうなっていただろうか。」北ダコタ州立大学獣医学部助教授　ジョージ　E．ステイプルス

「最も下等な蠅から複雑な脊椎動物にいたるまで，神経組織の中に，神経の機能を完全に果たさせ，神経繊維や神経細胞接合部（シナップス）の複雑な組織を通して体の一部から他の部分への情報経路を働かせる，秩序だった精密な構造がある。全生物に共通している基礎現象は，各々がその領域で

2. （宇宙の絵）

神は「光あれ」と言われた。すると光があった。神はその光を見て，良しとされた。神はその光とやみとを分けられた。神は光を昼と名づけ，やみを夜と名づけられた。……
（創世1：3～5）

完全に適合していることを物語っている。」 イリノイ大学昆虫学部長　ジョセフ・ラーセン

「私は長年動物の観察と研究に携わってきたが，各々の動物に深い印象を受けた。動物の王国の創造を支配する御手が存在したことを確信している。ある種類は他を治めるように，それぞれが偉大な計画の中にそれぞれの位置を持っている。」 カリフォルニア大学動物栄養学者　グレン　P．ロフグリーン

動植物統合機構

「最近，我々は生物社会を生態系として考えるようになった。生態系とは，光や水以外は多かれ少なかれ，自給自足できる系のことをいう。動植物は非常に複雑な方法で相互依存している。この意味で動植物は，一つの機構に統合されている。多くの機構の栄養素は窒素，りん，カルシウム，カリウム等に限定されている。栄養素や化合物が地球生化学的に循環して，これら元素を生態系の各レベルにバランスよく行きわたらせることができる。植物はある種類の動物の食料となり，その動物は他の動物の食料になる。生態系代謝とは，植物が生産を続けるための循環を行なわせることを意味する。栄養物が一群の生物に貯えられるために，生態系代謝がとまるとしたら，植物さえも死んでしまう。これらの現象から，創造された世界にとって，死は不可欠な要素であることが判る。人間の生命もまた，他の生物の死がなければ存続し得ない。」 ロサンゼルス市カリフォルニア大学植物栄養学教授　アーサー・ワーレス

人間

「我々が生きていて，肉と血からなる肉体の能力で毎日経験しているという事実が無かったとしたら，我々のような生物が存在し得ると考えることはできまい。我々がまさに存在し，すばらしい特質を持っていることは疑いもなく事実であるから，天父もこれらの属性を持ち，我々が現在持っている以上にはるかに高められた他の特質を持っておられると容易に想像できるはずである。」 クリーブランド州立大学化学部　アール　M．モーテンセン

「人は60兆の生きた細胞から作られた体を持ち，細胞から各機関を構成してカラーテレビよりも完全な状態で物を見ることができ，また動き，形，視野およびいかなる秀れた機械にも勝る複雑な感覚を持ち，星，地球，動植物，大洋を見，現象に好奇心を持ち，現在の人知では測り知れない神を考える。」 ユタ大学医学部産婦人科　マックス　L．スウィート

「あらゆる酵素，細胞，器官には，特定の働きがあり，健康な時には，その働きが一定している。さらに，機能が故障した場合，体のほとんどの器官は，援助または代替の道を備えている。」 北オハイオ大学薬学部教授 デビド M．スチュアート

「人は一人で生きてゆくことはできない。他人と結束しなければならない。最初に妻と次に子供達と結ばれる。また，教会，学校，自治体，経済機構等の社会団体を他の人々と共に作る。こうして，人はこの地球上で単に生きてゆくだけでなく，自分の全能力を伸ばしてゆくことができるのである。エデンの園で神は生きていく上で必要な規則を人に与えられた。後に神は，生活を営んで行くための原則を与えられた。これらの標準により，人は規則が悪い場合に起こったであろう無秩序や混乱を避けることができた。人はなおも，平和な社会生活をもたらすために最も良いと思う規則を作り続けている。」 ブリガム・ヤング大学社会学部　ジェームス　T．デュー

安息日

「主にとって安息日はいかなる意味があるのか，私は推し測ることができない。なぜなら，私は，主は聖い方であるがゆえに，すべての日が主にとって聖日であろうと思うからである。しかし，創造主が人のために第七の日を聖めたまい，『安息日を覚えて，これを聖とせよ』（出エジプト20：8）と人に命じられたことは，それで我々にとって十分な意味がある。人は地上で生存競争に明け暮れていながらも，創造主を忘れてはならない。また神のすべての創造物と自分との関係も忘れてはならない。それゆえ，安息日は人に生命の泉を思い出させ，敬うための休みを与え，同胞や野のけものにさえもあわれみ深くあらねばならないことを気づかせる日である。」 ユタ大学学生部副部長　ロウェル　L．ベニオン

宇宙の秩序と法則の応用

「我々は聖典により神は秩序の神であることを教えられている。（参照　アルマ42：22，教義と聖約88：36〜38，42，93：30，130：20〜21）神は律法と原則に従って生活しておられる。もしそうでなければ，神は神たることができなく，

3. （海創造の絵）

そのようになった。神はおおぞらを造って，おおぞらの下の水とおおぞらの上の水とを分けられた。
（創世１：７）

行動には一貫性が無いであろう。それでは，神が秩序正しい過程を経てこの地球を創造されたことを科学的方法によって解明できるといってもさほど驚くに足らないであろう。聖書と高価なる真珠には創造の概略が記されており，これは，現存のガスが凝縮されて地球ができたという科学上の知識と全般的に一致する。その後，秩序立った進歩に従えば，現在人の住んでいるような状態をもたらすことが必要だった。そこに植物や動物が，そして最後に人が栄えたのである。」クリーブランド州立大学化学部　アール　M．モーテンセン

「聖典に見られる創造の説明では，神は努力して宇宙を動かし，形と秩序を作ったことが一貫して強調されている。アブラハム書の記述では，神の行なった創造の業を『組織する』（アブラハム４：１）という美しい言葉で述べている。この意味は，もし神の力がなければ宇宙はやがて時が来た時形のないむなしいものに返ってしまうという意味である。これは万物に共通して言えることなので，詳細については物理科学で証明済みである。」ワイオミング大学化学部助教授　R．オーエン　アスプランド

「アブラハムは，『計画』について，創造物が『従う』まで『見守』られねばならなかったことを述べている。（アブラハム４：18）おそらく計画を推し進めてゆくためには非常な努力と実地練習を必要としたことであろう。これらの考えから神が自然の法則を扱い，また創造に段階があり，もし進化でなかったとしても（これは非常に良い言葉で，創造の一部を説明する言葉であろう），原形態に応用がきき変化する機構を組立てた結果，さまざまの生物の形態を発生させたことを，聖典の行間から読みとることは大して難しいことではない。聖典には『…草を地の上にはえさせよ』（創世記１：11）と神が言われたと記されている。しかし，人間の場合には，神は，『降りて』人を『組織』された。創造のすべての順序は非常に複雑である。創造の出来事を偶然という言葉で片づけてしまっては，盲目的な信仰になってしまう。聖書の最初の言葉が舞台を完全に設定している。『はじめに神は……』。」ロサンゼルス市カリフォルニア大学植物栄養学教授アーサー・ワーレス

「生物が単純なものから複雑なものへと規則的に変化する過程に関して，遺伝学と我が教会の意見すなわち永遠の進歩とが一致しているところに，私は大きな喜びをおぼえる。」ワシントン州立大学園芸学助教授　ダーレル　R．ビーンツ

確信と証

「私は主が天と地とすべてそこにつけるものを造りたもうたことに何の疑いもない。むしろ科学や宗教で明らかにされている限りにおいて，創造の段階に関して，我々がどの程度の知識を持っているかに疑いを抱いている。科学が一定の段階を明らかにした時，神の予言者がそれらの全段階を明らかにしている，あるいはこれまでに明らかにしてきた，またはこれからも明らかにするであろうことに科学者は何ら矛盾を感じないであろう。いつの日か科学が宇宙の法則をある程度明らかにする時，知識人と信仰厚き人は両者の意見の間にある外見上の食い違いを問題視する必要がなくなるに違いない。ただ真理が誤って解釈された場合にしか，論争は起らないであろう。」ジョージワシントン大学解剖学教授　フランク　D　アラン

「創造の時と方法に関して十分に明らかにされていないことから，へりくつをつけたり，混乱している人達を，私は憂えている。彼らは，神が『良しとされた』（創世記１：31）点を見失っているからである。我々には，すべての循環過程すなわち大気，土壌，生態等が良い状態を保っていることを見極める責任がある。」ブリガム・ヤング大学動物学助教授　デビド　A．ホワイト

「神の最も秀れた創造物である人間は，すべての創造物を決して悪用でなく活用するように命じられている。もし，この原則が守られないとしたら，将来の世代は今日我々が享受しているような恵みにあずかれないであろう。」ユタ州立大学食品科学部長　C．A．アーンストロム

「聖典に記されている創造の次第は，簡潔であり不完全であるが，基本的段階についてはほとんどが記されている。旧約の予言者は神よりの導きなくして，創造の段階を見出し，それらを順序づけることができたとは信じられない。」宇宙物理学者，コロラド州ボールダー高緯度観測所，R．グラント　アセイ

「実際のところ，創造とは今もなお起こりつつある進行中の過程である。『最初の創造』で用いられたある手法は，遺

4.（夜と昼を
わける絵）

神は二つの大きな光を造り，大きい光に昼をつかさどらせ，小さい光に夜をつかさどらせ，また星を造られた。
（創世１：６）

伝子を再結合させて個人の特徴を形成する肉体的，知的特性を伸ばすといった方法で現在もなお使われている。このように，人間は皆似ているようであっても，個人はそれぞれ肉体的，知的に，特異な存在である。」ジョージ・ワシントン大学解剖学教授　フランク　D．アラン

「聖書は科学書として記されたわけではない。それゆえ，聖書に地球の物理的法則がほとんど記されていなくとも，何ら驚くにはあたらないわけである。信仰，希望，慈愛，喜び同情，悔改めなどの人間の性質や個人の進歩の原則に比べて，天文学，化学，数学，生物学についてはほとんど記されていない。神より与えられた経験，記述，測定の能力によって，人間は地球を治めているいくつかの物理的な法則を発見することができる。それはあきらかに神が意図されたことである。しかし，啓示により予言者を通して与えられた偉大な永遠の真理は，以下の言葉に耳を傾ける者への信仰の啓発としての意味がある。『人々にもそのとおりにせよ』（ルカ６：31参照），『裁いてはならない』『たましいの悔いくずおれた』（詩篇34：18）『たといあなたがたの罪は緋のようであっても』（イザヤ１：18），『柔和な人たちは，さいわいである』（マタイ５：５）。これらの原則は人々に導きと希望を与え，我々の実験室から発せられるいかなるものよりも意義がある。」ブリガム・ヤング大学植物学教授　ハワード　C．シュトッツ

「たとえわずかであっても，天の真理を調べ，研究，比較学習する人は，おのずから天は英知ある存在によって創造され，人がわずかの真理を知るにつれて，その方の知識や力の一面は理解し得ても，すべてを知るとなると人知を越えていることを証明せざるを得なくなる。」アイオワ州立大学農学部助教授　ノーヴァル　J．ワードル

「聖マタイ受難曲のような大作を心に描いた時，バッハの心にあった創造力に，我々はただ驚くばかりである。芸術の素材，豊かな表現，複雑な構造を鋭く見抜くには，わずかな人々にだけ与えられている洞察力が要求される。エホバの考えを支配する力はどうであったであろうか。計画を立案され，地球を造られ，我々をこの地へ送られたエホバの洞察力の深さ，表現の豊かさはどうであったであろうか。地上における我々の経験から察して，人の子らにははかり知れない創造の力をキリストは持っておられた。」ブリガム・ヤング大学作曲家　メリル　K．ブラッドショウ

「主任建築家，主任運営者としてエロヒムとエホバの役割を見た場合，御二方は最も高い意味での科学者としてあらゆる天体を物理学的，生物学的，社会学的に運営しておられる。綿密な計画，計画の検討，実施は，原則と真理に基づいて行なわれ，それらは人間の科学の顔色を奪うばかりか，人間の想像をはるかに越えている。」ブリガム・ヤング大学社会学教授　ウィリアム　W．リーダー

「最も簡単な生体ですら，非常に美しくも，複雑を極めており，多くの器官とすばらしいほどに調和している。さらに高等な動物や人間を創造することなどは，理解できそうにもない。」デラウェア大学生物学部長　G．フレッド・ソマース

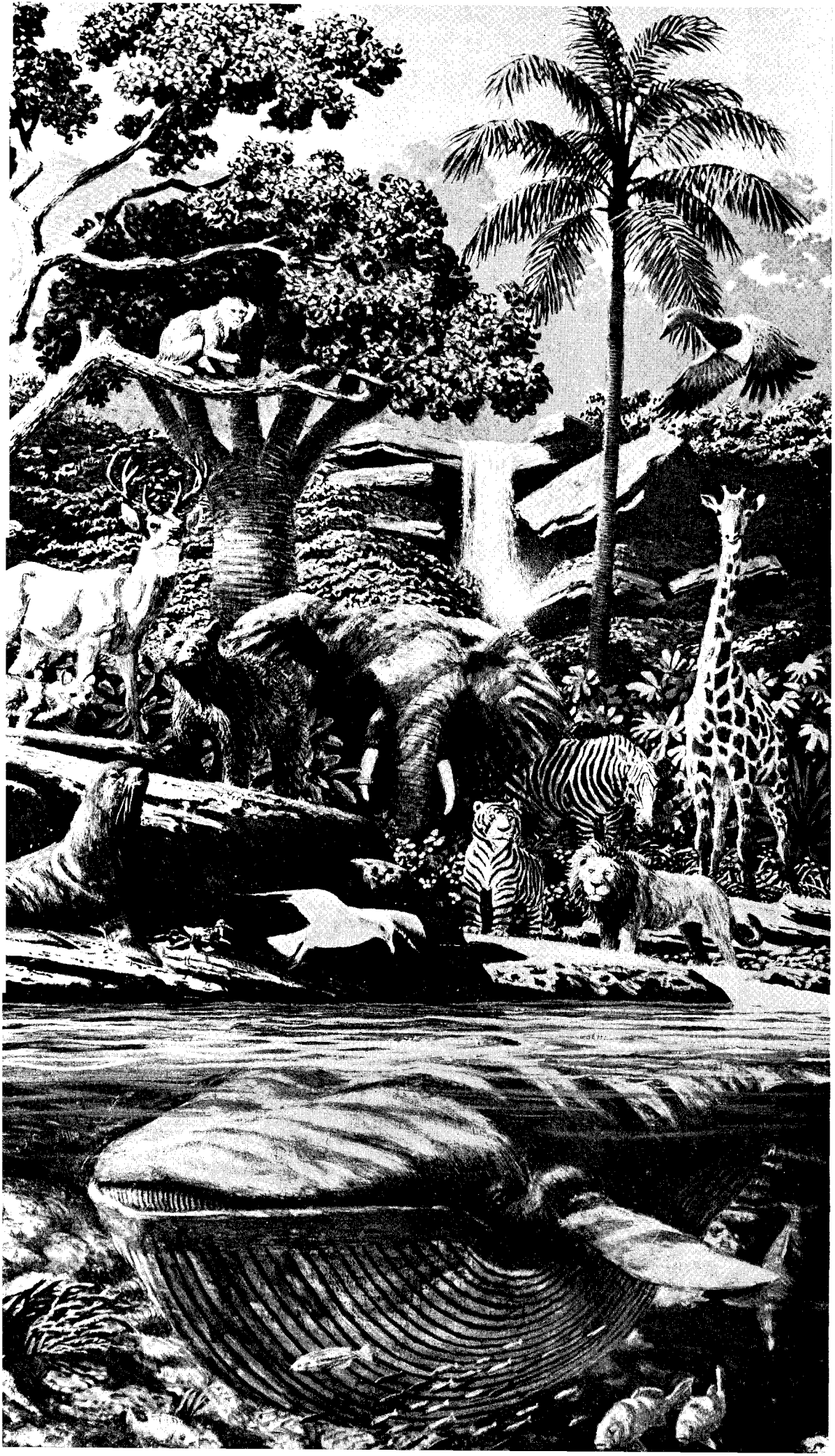
「高温による原子核融合反応状態にある太陽を和らげ，粉砕された岩石（土）から草の葉身を作り出し，葉身を食用として用い，人の肉や思考の源とすることは，いかに人間が模倣しようとも模倣できるものではない。」ユタ大学医学部産婦人科　マックス　L．スウィート

「何世紀もの間知識を集積し，目的に向って努力した結果今や人は心臓移植に成功し，人を乗せて月にロケットを飛ばし，回収に成功している。我々はいまだ普通の風邪をなおすこともできず，子葉が行なう炭酸同化作用と同じこともできないことを心にとめる必要があるのではないだろうか。またらい病をなおすことや，我々の長兄がかつて行なったように，死人を再び生かすことも我々はできないのである。」北ダコタ州立大学獣医学部助教授　ジョージ　E．ステイプルス

「創世記第一章の創造の話を通じてそれが神の業であることの証が繰返し述べられている。人は神がいかに創造の業を行なわれたかについて関心を持ったとしても，以下の聖句に対する信仰を失うことはない。『主は知恵をもって地の基をすえ，悟りをもって天を定められた。その知識によって海はわきいで，雲は露をそそぐ。』これらの言葉を信じる者はだれでもこの約束を受ける。『それはあなたの魂の命となりあなたの首の飾りとなる。こうして，あなたは安らかに自分の道を行き，あなたの足はつまずくことがない。あなたは座しているとき，恐れることはない。……これは，主があなたの信頼する者であるからである。』（箴言３：19～20，22～24，26）」ユタ大学学生部副部長　ロウエル　L．ベニオン

6. （草木の絵）

神はそのかわいた地を陸と名づけ，また言われた，「地は青草と，種をもつ草と，種類にしたがって種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせよ」。そのようになった。（創世1：10～11）



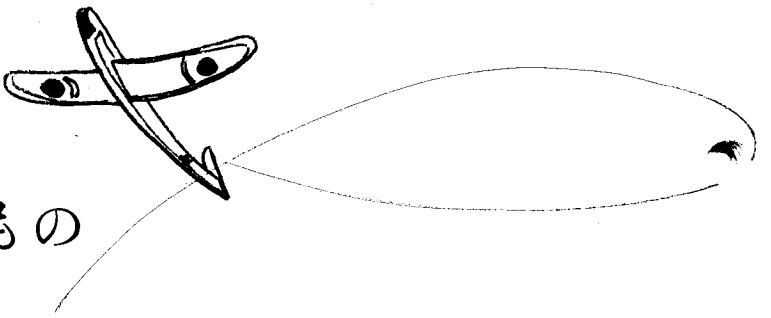
6. （生き物の絵）

神は海の大いなる獣と，水に群がるすべての動く生き物とを，種類にしたがって創造し，また翼のあるすべての鳥を，種類にしたがって創造された。……神はまた言われた，「地は生き物を種類にしたがっていだせ。家畜と，這うものと，地の獣とを種類にしたがっていだせ」。そのようになった。（創世１：21，24）

7.（アダムと
イヴの絵）

神はまた言われた，「われわれのかたちに，われわれにかたどって人を造り，これに海の魚と，空の鳥と，家畜と，地のすべての獣と，地のすべての這うものとを治めさせよう」
（創世１：26）

＊両親へ：子供が福音の原則にかなった選択をした時に，子供をほめてあげることは大切なことです。子供たちが賢明な選択をしたら，よくほめてあげなければなりません。



あきらくんのえらんだもの

サラ L. ジョンソン

あきらくんのおばあさんは，いいました。「さあ，あなたが えらぶのよ。おもちゃの ひこうきと，ガムがあるでしょ。あなたは どちらをえらぶの。」

あきらくんは ガムをみて，それから おもちゃの ひこうきを みました。あきらくんは，りょうほう ほしかったのですけれど，一つだけしか えらべないことを しっていました。

あきらくんは，ガムがほしくなりました。「ガムがいいや。おかしみたいにあまいし，かんでいると ゴムのようにのびるでしょ。それに ながいこと もつしね。」とおもいました。

あきらくんは おもちゃのひこうきも ほしくなりました。なかよしのみつるくんも，おもちゃのひこうきを もっていました。あきらくんは ひこうきをとばすことが できました。「もし，ひこうきを えらんだら，みつるくんのうちへもっていって，２つのひこうきで いっしょに あそべるなあ。」とかんがえました。

あきらくんは，ガムのほうをみて，それから ひこうきをみました。ガムを 手にもって，なんども ひっくりかえしてみていました。はなのところへ ちかづけて，においをかぎました。それからつぎに，おもちゃのひこうきを とりました。

「とばしたかったら，とばしてもいいのよ。」と，おばあさんがいいました。

あきらくんは ひこうきをもって そとにいくと，そらにむかって まっすぐに とばしました。ひこうきは，ブーンというおとをたてて そらを とんでいきました。あきらくんは，ひこうきが すきでした。

いえにかえると おばあさんに ききました。「ガムは，なんまい はいっているの」

「５まいよ。」おばあさんは，そう こたえました。

へやのなかには，いもうととおかあさん，おとうさん，それにおばあさんが いました。あきらくんは，いっしょうけんめいに かんがえました。

そして，あきらくんは きめました。ガムのほうをとると，そとがわの つつみがみをとって １まいをいもうとに あげました。それから，おかあさん，おとうさん，おばあさんに １まいずつ あげました。

さいごの１まいをとると，かみをとり，じぶんの口に いれました。あきらくんは，おばあさんにありがとうといって，にっこり わらいました。

「おいしいな。みんな ガムがすきでしょ。」と，あきらくんはいいました。

自分にはずかしい行ない

ロウェル L. ベニオン

それは遊園地へ行った日のことでした。おおぜいの子供たちは，馬や豚，牛，羊を見たり，小馬や回転木馬などに乗って遊んでいました。10歳の英雄くんと妹のゆかりちゃんもそこにいたのです。

二人ともバス代の他に300円ずつおこづかいをもらって来ました。バス代は一人片道30円でした。6時には家に帰らなければなりません。二人ともとても楽しく遊びました。英雄くんはホットドッグを3つも食べたし，二人は楽しく乗り物に乗りました。最後に残ったお金は60円でした。30円はゆかりちゃんのバス代，あとの30円は英雄くんのでした。ゆかりちゃんより2つ年上なので，英雄くんがだいじにお金を持っていました。

帰り道，アイスクリームの売店が英雄くんの目につきました。英雄くんは，とてもアイスクリームが食べたくなりました。でも，お金がないのにどうやって買えるでしょう。

「いい考えがある。ゆかりの30円を使おう。バスにはたくさんの子供が乗ってとてもこむから，30円でぼくとゆかりの二人が乗っても，だれも気がつかないだろう。」英雄くんはそう考えました。

そこで英雄くんはアイスクリームを買って一人で食べました。30円でバスの運転手の前をぶじに二人が通りすぎることばかり考えていたので，思っていたほどアイスクリームはおいしくありませんでした。

バスに乗ると，英雄くんはゆかりちゃんを前の方に押して30円を入れました。英雄くんは自分の心を知られないようにバスの運転手の顔を見ないで，他の方向をむいていました。バスの運転手は気をつけて子供たちを見ていました。そして運転手は英雄くんを呼びとめて言いました。「ぼうや，君たち二人なのに30円しか入れてないよ。」

英雄くんの顔は赤くなりました。彼はみつかってしまいましたが，なんとかこの場をきりぬけなければならないと思いました。

「いいえ，ぼくは箱の中に60円入れました。」と英雄くんは言いました。

運転手は英雄くんの言葉を信じていないようでしたが，英雄くんは払ったと言いはって，ゆかりちゃんといっしょにすわりました。

「やれやれ，もう少しでつかまるところだった。でも運よく，バスからおろされたり，おまわりさんのところへ連れて行かれないですんだ。」と英雄くんは思いました。

しかし，英雄くんの心配事はまだ終っていませんでした。バス会社をだますことが良くないとわかっていたので，とても恥ずかしい気持でいっぱいでした。英雄くんは，近所の道夫くんがビーだまあそびでインチキをした時，自分が道夫くんをひどくにくんだことを思い出しました。道夫くんのことをうそつきと呼んだりしました。でも英雄くんは，自分も同じうそつきだとみとめなければならなくなりました。

遊びに行くための300円をくれたお父さんのことを考えました。お父さんは決してぬすんだりうそをついたりしない人です。英雄くんは，バプテスマを受ける時に，イエスさまが望まれるような少年になると約束したことを思い出しました。

夕食の時，英雄くんはあまりごはんが食べられませんでした。それは，ホットドッグを3つとアイスクリームを食べたからだけではありませんでした。2つのことが気がかりだったからでした。1つは自分がインチキをしたこと，もう1つはそのインチキをごまかすためうそをついたことでした。

お父さんは，英雄くんがどこかぐあいが悪いのだろうと思いました。夕ご飯がすむと，お父さんは英雄くんをそばによんで言いました。「英雄，どうしたんだい。おなかに悪いものでも食べたのかい。」

正直な少年になろうと決心した英雄くんは答えました。「いいえおとうさん，ぼくは自分にはずかしいことをしてしまいました。」それからおとうさんにみんな話しました。

英雄くんが話し終えると，お父さんはこう言いました。「さて，私はどうしたらいいと思うね。」

英雄くんは答えました。「お父さんがそうしたいなら，ぼくをぶって下さい。そうするべきだと思います。でも，ぶってもぶたなくても，ぼくはあれからずっと恐ろしい思いをして，ごまかした30円のばつは受けたと思うんです。」

あなたはどっち？

こちら？　　それとも　　こちら？

「これ，たべたくないわ。すきじゃないもの。」

「すきじゃないけれど，たべるわ。」

「ぼくのさんりんしゃにのせてあげないよ。」

「じゅんばんにのろうね。」

『ねえ，そのボールかえして。ぼくのだよ。』

「きみはこのおにんぎょうさん。ぼくはボールだよ。」

さとるくんの夢

ルシール C. リーディング

一月のある寒い朝，お母さんが言いました。「次の土曜日は，しろがね山に招待されているのよ。皆のスキーをしているところが見られるわね。」

あまりすばらしい話なので，さとるくんは信じられないくらいでした。冬のあいだ中，さとるくんは窓のそばにすわって，ほかの子供たちがたくさんつもった雪の中で遊ぶのを見ていなければならなかったのです。夏になって，水泳や野球ができないのはつらいことです。しかしさとるくんは，冬になって雪がつもって，大きい子も小さい子も雪だるまを作ったり，家の近くの丘からそりですべりおりたりして遊んでいるのに，自分の体が不自由なためにそれができないことの方がよほどつらいと思いました。

さとるくんは何よりもスキーができたらよいと思っていました。小児マヒにかかる前には，毎年しろがね山の近くへ行く人たちからよく話を聞き，もう少し大きくなってスキーを買うだけのお金がたまったら，自分もスキーをしようとひとりで計画していたのです。病気になってからは，さとるくんは急な坂をひとりでおりるという夢まであきらめていました。それでも，いつかしろがね山へ行って，ほかの人がスキーをするところでもよいから見られたらとおもっていました。そして今，さとるくんはほんとうにそこに行けるのです。

土曜日がとても待ちどおしく感じられました。そしてとうとうその日がやってきました。朝早く，とくべつに用意された大型のバスがさとるくんの家の前にとまりました。バスがマツ林をぬけて山の頂上近くまで走っていくあいだ，さとるくんやほかの体の不自由な子供たちは，窓の外の美しい銀世界をわくわくしながらながめていました。

スキー場につくと，子供たちがスキーをするところの近くまで行かれるように，とくべつな台の上にいすが用意されていました。寒さのために足がいたかったけれど，さとるくんはしろがね山にいることをすばらしいと思いました。でも，雪の上をすべりおりるときの楽しさがあじわえたら，もっともっとすばらしいだろうと思いました。さとるくんは少しつまらなそうにためいきをつきました。そして，知らないうちに大きな声でひとりごとを言っていました。「いちどでいいからすべれたらなあ」

すると，「よし，君がしたいと思うなら，かならずできるよ。それも今すぐにだ。」という声がきこえて，さとるくんはつよいうでにだきかかえられました。そばに立っていたスキーの先生の声でした。先生はストックを立てて，さとるくんをしっかりだくと，つなが張ってあるところまですべって行きました。そして，左手でつなにつかまりながら頂上までのぼって行きました。

先生はさとるくんを見ながら，きもちがよいか，また「用意はいいかい」と聞きました。さとるくんはうなづきました。あまりびっくりしたので，口もきけないほどでした。さいしょに目もくらむような谷をおりて行った時には，息がとまりそうでした。それから広いところに出ると，２人は大きくカーブしながらすべって行きました。そして，ほかの子供たちがいるところまですべって行きました。

さとるくんが見ていると，ほかの子供たちもつなのところまで連れて行ってもらい，つなにつかまって先生といっしょにすべってくるのです。さとるくんは寒さもわすれてしまいました。足の悪いことさえわすれていました。それは，ほんの短かいあいだでしたが，さとるくんにはスキーをするという夢がほんとうになったように思えたからです。

幻覚剤

管理監督

ジョン　H. バンデンバーグ

聖書の中に，バルテマイという盲目のこじきの話がのっています。彼はエリコの近くの道端に座って通りがかりの人に食物や施しを請うていました。ある日のこと，救い主が弟子と大ぜいの群衆を伴ってエリコにやって来ました。ナザレのイエスが近くにやって来ることを聞いたバルテマイは，大声で叫びました。「ダビデの子イエスよ，わたしをあわれんで下さい。」

主はその声を聞いて，人々に彼を呼ぶように命じられました。バルテマイが近づいて来たとき，主は「わたしに何をしてほしいのか」と尋ねられました。バルテマイはこれまで多くの通りがかりの人に食物や施し物を請うていました。しかし主に対してはこのように答えたのでした。「先生，見えるようになることです。」

「そこでイエスは言われた，『行け，あなたの信仰があなたを救った』すると彼は，たちまち見えるようになり，イエスに従って行った。」（マルコ10：46～52）

現代の私たちの社会にも，この盲目のこじきと同じように，街路に座って施しを請うている人々がいます。しかし彼らの求めているのは食物や物ではありません。人生の意義と目的とを請い求めているのです。

そのような人々の中には，自分の生活を通して人生に幻滅を感じてしまっている若い人々がいます。彼らのある者は現実から逃避するために，彼らの言葉で言うならば「より深い人生の意義を知るために」種々の薬剤や幻覚剤へと走ってしまっているのです。幻覚剤の濫用は著しく増加しています。恐らく皆さん方の中にもこれまで何らかの幻覚剤を使ったことのある人，あるいはこれから使うようになる人がいるかもしれません。皆さんには自由意志があります。幻覚剤を使うべきか否かを決めなくてはならなくなった時，自由意志を正しく行使することは賢明なことです。皆さんが正しい決断を下すことができるよう，はっきりしている事柄を二，三指摘したいと思います。

はじめに，「悪しきを企つる人々の心中に現在存し，また将来在らんとする悪と企図」（教義と聖約89：4）をご存知であった主は，私たちに次のような忠告を与えておられます。「あなたがたは神の宮であって，神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が，神の宮を破壊するなら，神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら，神の宮は聖なるものであり，そして，あなたがたはその宮なのだからである。」（Ⅰコリント3：16～17）

次に主はこのように言われています。「およそ，多く与えらるる者は多く求められ……」（教義と聖約82：3）立派な家庭で育ち，多くの教育を受ける機会に恵まれ，さらに主のみ心と主が自分たちに何を望んでおられるかを知っている末日聖徒の若者として，皆さんは指導者になるという大きなチャレンジを受けているのです。確かに主は，皆さんが世の中にあって正しい決断を下すように，また指導者としての役目を引き受けるようにと望んでおられます。

最後に，ユタ州麻薬取締委員会理事長ブルース　H. ウーリィー氏の意見を紹介しましょう。

「もしあなたが若い末日聖徒であるなら幻覚剤に関する問題や，その濫用が許されているという事実を無視することはできません。私たちは幻覚剤に慣れてしまった社会に住んでいるのです。

私は各国から集まった若い幻覚剤を常用している人々と話をしてみて，彼らのほとんどが「私は誰なのか」「何のためにこの世にいるのか」という非常に重要な疑問を抱いていて，それに対するはっきりした解答を求めているということがわかりました。多くの若者は，幻覚剤（特にＬＳＤ*1，マリファナ，スピード*2など）を用いることによって，その解答が得られるだろうと考えているのです。

皆さんは若い末日聖徒として，友人が幻覚剤を使うか使うまいか迷っている時に助けを求められるかもしれません。そのような時，皆さんは彼らに理性ある決断をさせることができるように，幻覚剤の真の姿を知っていなくてはなりません。

ＬＳＤやマリファナなどの幻覚剤は，どんなにそう明で誠実な人々をも白痴同然の状態に追いやるのです。また危険で不可思議な迷想へと陥し入れます。幻覚剤を常用している人々は，幻覚剤というものが少しも人間のためにならないものだということに気づいていないようなのです。幻覚剤を

常用していると性格上にもその影響が現われてきます。怠惰になり思考力が鈍り，しっと心や恐怖心を抱くようになるなどがそれです。確かに，幻覚剤を常用している人でも愛や兄弟愛などについて考えるでしょう。しかしもし彼らが素直になって，客観的に自分を見つめてみるなら，幻覚剤というものは決してすすめられるものではないということを認めるに違いありません。」

人生の意義と目的は，これまでと少しも変わってはいません。「目が見えるようになること」を願っている人，人生の意義を請い求めている人々に与えられる答えは，聖書の中にあるように「たちまち見えるようになり，イエスに従って行った」あの盲目のこじきバルテマイの得た答えなのです。

*1. ＬＳＤ……Lysergic acid diethylamide（リゼルグ酸ジエチルアミド）陶酔，幻覚，精神分裂症状をきたす一種の幻覚剤

*2. スピード…アンフエタミンを含む刺激剤

愛の実践

コニー・チャップマン

私たちは，カリフォルニアのエルモンテ・ステーキ部，ハシエンダハイツ・ワード部のローレルクラスとして，愛の実践という主旨をかかげたすばらしい奉仕計画に参加しました。

毎週月曜日の午後，私たちは知恵遅れの子供たちのいる施設を訪問して，二時間近くを共に過ごすのです。現在そこには，生れて数ケ月から13才までの子供たちが50人ほどいます。

この仕事を始める前に，私たちは精神病医で福祉委員をしている人から指導を受けました。その時の彼の印象的な話は，今でも忘れることができません。彼は子供たちと接する上で大切な点を数多く強調しました。そして，人はみな違って当然なこと，知恵の遅れている子供，脳性麻ひの子供たちがみな一人一人違っているように，私たちも人それぞれ異なっていると言いました。また私たちも彼らのような境遇に生まれ合わせたかもしれないし，彼らが私たちのような健全な心身を持って生まれてきたかもしれないとも言いました。そしてもし私たちが彼らと同じ状態にあるなら，誰かに会いに来てもらえることはどんなにかうれしいことに違いないと言いました。単なる好奇心からではなくこのようなことが動機となって，私たちは毎週月曜日訪問することになったのです。

私たちは同情するのではなく，彼らと同じような考え方をするようにと教えられました。子供というのは，何度も同じことを繰り返されてわかるようになるのです。私たちは，白一色に身を包んだ看護婦の方と，見てすぐ区別がつくように，明るいあざやかな色の服を選んで着ていきました。そうすれば子供たちは，私たちが看護婦ではなく訪問者だということがわかるだろうと思ったのです。子供たちが私たちの来るのを心待ちにするようになるため，私たちは月曜日ごとにきちんと通わなければなりませんでした。そうしているうちに，彼らは私たちの来るのを楽しみに待つようになりました。

はじめのうちはなかなか心も落ち着かず，自信も湧いてきませんでした。子供たちと会う前は特にそうでした。きっとどうすれば良いのか見当がつかなかったためだと思います。私たちは子供の方から私たちに寄って来るようにしなければならないと言われていました。しかし普通の子供でさえ，はじめての人に「なつく」まではかなりの間おずおずしているのですから，それはとてもむずかしいように思われました。ところが，はじめて施設を訪問して着いたか着かないうちに，私たちは子供たちにとりまかれ，たちまち友だちになってしまったのです。

「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわちわたしにしたのである。」（マタイ25：40）子供たちがけんめいに何かを話そうとしている様子，歩こうとしている様子，学ぼうとしている様子をみて，また，私たちには簡単にできることでも苦しみながら努力している姿を見て，心を打たれました。普通に歩いたり話したりできるのはあたりまえのことと思いがちです。私たちは天のおとう様から与えられたそのような最も大切な賜に，心から感謝するということを学びました。

私たちは子供たち一人一人を心から愛しています。彼らはみな，私たちの最良の友なのです。私たちは今，天のおとう様の計画がどんなにすばらしいものであるかがわかりました。このような子供たちはきっと神の王国を継ぐ者となるでしょう。

一度，「私は神の子」やその他のプライマリーの歌を歌ってあげたことがあります。その時，私の目には涙があふれてきて，部屋中にみなぎった安らかな気持と喜びに私たちはみな感動しました。

私たちが大きくなって結婚し，お母さんになって人生が今よりもずっと複雑になってきた時に，私たちは過去をふり返って，善意と奉仕の精神を実践して得られたあの心の安らぎと愛をもう一度味わうことができるでしょう。

＊愛と平安と福音と理解によって家族をひとつにしたいと願う母たちへ

日曜日こそ，その日です

エスナ R. リード

子供が生まれて以来ずっと，私たち夫婦は日曜日毎に，「家族のみんなで安息日を聖くするためには，何をしたらよいのだろう」という疑問について考えてきました。私たちにとっては，子供たちが天父を愛し，そのいましめを守るようになることが一番大切な問題でした。家族はみんな安息日を聖くしたいと思っていますし，行ないに気をつけて，私たちのすることが主に受け入れられるものであるようにと願っています。

日曜日で最も大切なのは，神権会，日曜学校，聖餐会，その他教会の集会に出ることです。それらの集会に出席する時間が日曜日のほとんどを占めますが，私たちはそのほかに，家族の特別な活動の時間をとっています。その日曜日の活動で「して良いこと」「して悪いこと」は予言者から教えられていますが，私たちはそのなかに次のような基準を設けて，良い活動と良くない活動を判断しています。

(1) それによって福音の知識が増すかどうか
(2) 家族をひとつに結ぶ活動かどうか
(3) 家庭に愛と平安をもたらすかどうか
(4) 日曜日にしかできない活動かどうか

私たちは日曜日を，祖父母を招待したり，訪問したりする日にしています。四人の祖父母はみな愛にあふれた霊的な人たちです。私たちは若い頃の経験談や先祖の話を聞いて，とても楽しい時間を過ごせるのです。熱心に神や隣人に奉仕した先祖たちの話を聞けるのは，なんと大きな祝福でしょう。私たちはその話を聞いて，自分も立派に生きたいと思います。

また私たちは，昔ふたりが宣教師であった時の伝道方法を，子供たちにあてはめて行なってきました。証を求めてモルモン経や福音の原則を勉強し，祈りが答えられた時の，あの改宗者の喜びを子供たちにも味わわせたいと思ったのです。日曜日には，教会の書籍をテキストに福音のレッスンをしたり，教会でのお話の準備もします。

しかし現在，安息日の活動もいくつかは何年か前と違っています。長女は高校二年生になり，一番下のひとり息子は小学六年生になりました。けれども，私たちの家にある安息日の精神は，活動が変わっても同じです。

日曜日には，みんなで自分のスクラップブックや日記をつけることにしています。特別な出来事や自分の歴史が載っているスクラップブックが，ひとり三冊以上になりました。

私たち家族は，週に一度，この日にみんなで合唱をします。祖父母たちが誕生日，夕食会，感謝祭，クリスマス，家庭の夕べなどで私たち家族の発表をプログラムに組んでくれるのでやりがいがあります。そのために，脚本を書いたり，楽器を弾いたり，劇やコ

ーラスをみんなで練習します。

あやつり人形は小さな子供だけのものではありません。先週の日曜日の夜，十代の子が二時間かかって，家族に見せるあやつり人形の脚本をテープに吹き込んでいました。

教会の活動が多いためにいつもより簡単な食事であっても，日曜日には最上のテーブルクロス，銀食器，ガラス器を使います。

この日は不意の来客でも歓迎する日です。

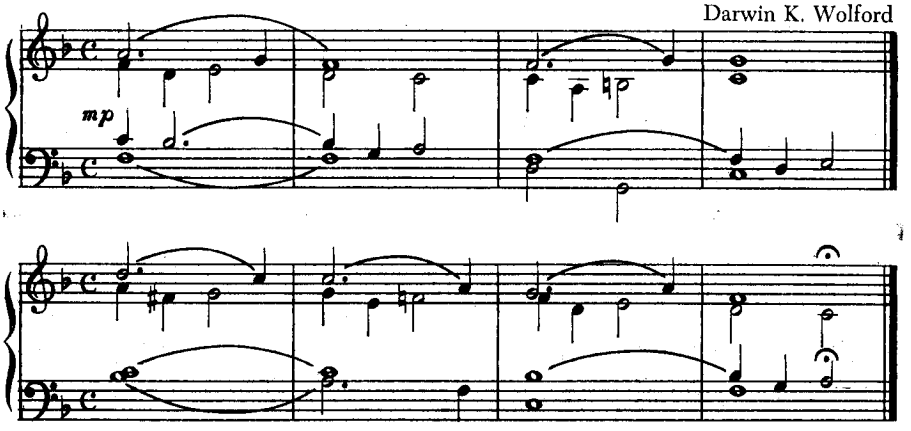
家族は週に一度，台所のテーブルに集まって一週間にしたことや新しい週の計画を話しあいます。その時ひとりひとりが，うれしかった出来事，悪かったと思う事柄などを話すのです。毎日の生活で感じること，その人の希望，社会に対する関心やお互いへの愛が，話題の中に感じられます。

夫はこの日に，期限まぢかな教会の責任や宿題を忘れてはいないか，子供にたしかめさせます。ですから，子供たちは前夜のうちに宿題をすませてしまいます。子供たちはみんなが順番に教師になって，小石のコレクションやレポート，スカウト賞を受けたこと，読んだ本，名誉バッジを受けるためにしたことなどを，みんなに発表します。この話しあいの中で，私たちは天父の恵みや学んだ真理などの証を述べます。

日曜日には映画や野球やショッピングや水泳に行ったりしません。静かなひとときを，読書をしたり，体を休めたり，昼寝をして過ごします。

私たち家族にとって，日曜日は家族がいっしょに楽しみ，お互いに対する関心を深めあう日です。天父のことを思い，もっと天父に似る者となるように心を新たにできるこの日を，私たちは心から感謝しています。

聖餐の聖句伴奏曲



5月聖餐の聖句

大人日曜学校

わたしは道であり，真理であり，命である。だれでもわたしによらないでは，父のみもとに行くことはできない。（ヨハネ 14：6）

子供日曜学校

神は自分のかたちに人を創造された。（創世記 1：27）

わたしの息子を

E. LV. リチャードソン
神学講座教育課程編成部長

我々の子供は，自分と神との間には自分と両親との関係とそう違わないつながりがあること，すなわち自分が神の子供であることを知っている。また，両親も天父の子供であり，完全に進むためには多くのことを学び，多くのことをなし遂げなくてはならないことをも知っている。これが神の子供たちすべての目標である。我々の子供は，両親は時に誤りをおかすが，子供を神に近く育てたいと願っていることを知っている。また実のところ，自分でできることは両親に手伝ってもらいたくないと思っている。

子供は自分の望みや欲求をおさえ，それを現文化で受け入れられるように高めることを学び，年をとるにつれて自分の個性を深く認識するようになった。そして両親の助言よりも仲間の言うことに心を傾けるようになっていくのである。家庭外で楽しむことが多くなり，それによって少しずつ家庭から遠ざかり，両親の管理下を離れていく。大切な決定を両親だけに頼ってきた子供は，いまや，特定の人の助言だけを頼りとしない。

さまざまな人間関係に大きな関心をいだき始めて，魅力や人気のある少女たちに注目し，自分も彼女たちに好かれたいと思う。時には，教師の言うことよりも，彼女たちの気をひくことの方がもっと重要にさえなる。天の御父に信仰を持ち，家族を信頼していても，我々が彼らのためにしてやる決定にいつも満足しているわけではない。前には当然だと考えていた目標さえ，もう一度根本から考えなおさずにはいられないのである。

彼は家庭の外に問題解決を試みる。あなた方教師は，ジレンマに悩む子供に大きな助けをさしのべることのできる人たちである。「どのようにしたら確信が持てるのだろう」「ジョセフ・スミスは本当に御父と御子に会ったのだろうか」「私が伝道に行くのは必要なことなのだろうか。ただ家族や監督に期待されているからなのではないか」「いわゆる新しいモラルは，実は古いモラルと同じものだと言われたが，どうなのだろう」「知恵の言葉を守るのはそんなに大切なことなのだろうか」「什分の一や捧げものは，親や教会が考えているほど大事なことなのだろうか」「なぜ，ぼくは世間の人たちと違ったことをしなくてはならないのだろう」このようなさまざまな疑問がわいてくる。両親に話さない疑問も多いことであろう。

とはいえ，我々が彼の疑問をすべて解決してやれるわけではないし，そうしようとも思わない。子供が我々を愛し，尊敬していることを承知はしていても，我々の返答はもはやそのままたやすく子供に受け入れられはしないことがわかるのである。彼らは実に多種多様な手段を通して思想，助言，勧告，指示を受けとる。我々が彼らを助けてやりたいと心から願っていることには疑いをいだかないだろうが，子供たちは我々の努力の中に矛盾を見てとる。決定というものは，ほとんど自分でしなくてはならないものである。あなた方は教師として，あなたの信仰，清さ，誠実さに疑いをいだかせるような言動をしないでいただきたい。

教師として仕事をどう行なうべきかについて，私は非常に関心があるが，ここではそれについて語らない。私は教師がその能力と知恵を発揮して，子供にこのような影響を与えてほしいと考えている。子供が家庭外であなた方と接し，新たな経験を得た時に，それが，御父の王国の立派な会員となる資質を伸ばし，地を従わせる責任を立派に果たせる者として成長できるように……。

教師として，あなたは生徒を愛しなさい。我々親が愛するようにではなく，心から関心をよせる，多くの点で個性を持

教えるとき

った真実の友として。彼独特の個性を知りなさい。彼はあなたのクラスや世の中に，将来どんな貢献をするかわからない。考えや理解のしかたがほかのだれとも違う個性ある人間だと，自分に価値を認めることができるように生徒を導きなさい。あなたが彼に関心を寄せていること，人生の道に成功をおさめるために力を貸してやりたいと心から願っていることを，示しなさい。今，彼はわがままで，自分の幸福と自分の進歩にしか興味がないように見えるかもしれない。しかし，それは十代の子供たちにごくありがちなことではないだろうか。また我々にも見られるのではあるまいか。我々は自分に関心をいだいてこそ，他人への関心を持ち得る。自分を愛するように隣り人を愛せよという救い主の言葉は，そのことを教えるのである。

あなたが福音の証を持っていること，しかし自分が主観として感じたことは客観的な事実に代えられるものではないということをよく教えるために，彼にそれを学ぶ環境を提供しているのだということを知らせなさい。福音の知識を得るためには努力しなくてはならないことを，子供たちに知ってほしいと思う。教師の責任の一つは，生徒がそのことを知るための資料や機会を用意することであると，私は思う。真理を求めようと決心できるように生徒を導く時，生徒が聖霊の導きと霊感を感じられるよう，正しく積極的で健全な内容の資料を用いなさい。否定的な内容のものは，生徒が自分でみつけるであろう。救い主の教えと反するものを隠す必要はないが，ことさらとりあげることもない。強い確信があるからといって，それが絶対の真理ではない時もあることを教えなさい。我々は子供たちに，不確かな迷信や言い伝えを真理の福音と混同してほしくないと思う。

生徒には，答えをみな教えてはならない。現代にも予言者がいて，常に啓示を受けていることを忘れないようにさせなさい。そのことを受け入れるならば，「まだすべての答えが知らされてはいない」ことがわかるに違いない。あとでひっこみがつかなくなるような答えをするよりは，「私たちも知らない。いっしょに勉強しようではないか」という方がはるかによいことは，私の家で実験ずみである。「すべての答えを知っていない人ではなく，知っていると考える人の方が信仰を失うものである」とよく言われる。故十二使徒評議員ジョン A. ウィッツォー長老は，賢明な人は教会を去らないはずである，なぜならば，福音の原則すべてについて自分に満足ができずに，いつも答えを求めて，それが与えられる時を待ち望むからであると言った。我々の息子が現在充分な答えを得ていない問題にもいつか解答が得られるという信仰と確信を持てるように，すでに神が啓示したもうた事柄に対して信仰を深められるよう，導いてくれることを，我々はあなた方教師にぜひともお願いしたい。それが「……人は努めて善き業に従い，多くの事をその自由意志によりて為し，多くの正しき事を為し遂げよ」（教義と聖約58：27）という，主がジョセフ・スミスに与えたもうた言葉の精神ではないだろうか。

子供に考えさせなさい。主の御言葉を教えて，自分で答えをさがさせなさい。教える時には，自分もはっきりわからないような生半可なことを教えてはならない。自分で考え，自分の知っている真理すべてと調和した結論を出すことは，人の権利であることを承知して，人の霊の自由なことをいつも忘れないようにしなさい。あなたの現在の見解と一致しない意見がでても，ばかにしてはいけない。生徒はみないろいろな点でユニークである。「知らないからといって人を攻撃するのは無能階級の人々の好むうさ晴らしだ」と言った人があるが，なるほどそうだと思う。あなたはそのような人々の仲間になってはならない。

教える方法として，話すことを生徒の経験したことに関連づけるよう努めなさい。そうすれば，あなたの教えは生徒の実生活に意味を持つようになる。熱心のあまりに，生徒に催眠術をかけて，実生活と関係のない理想境へひきこむといったようなことはいけない。あなた自身の経験を生かしなさい。非現実的な結論からは，あなたの生活からにじみ出る真実がどれほど感じられるであろうか。我々は，実際の生活に

ないことを教えていながら，聞き手は自分の話を聞いてさっそく実行するだろうと自分勝手に思い込むことがある。事実ありがちなことではあるが，自分の経験に関連づけないままで終った話というものは，聞き手をひきつけずに，ほとんど効果のないものになるのが普通である。びっくりさせたり悲しませたりするような話は，どうか生徒の気持をよく考えて気をつけてしていただきたい。福音を教えるということは，生徒各自が新しい経験と新しい理解の世界へ入る扉をあけることである。しかし，その扉をくぐるのは生徒自身である。ほかのだれも，もちろん教師さえ，生徒のために扉をくぐってやることはできない。

どうか，よく準備をしていただきたい。福音に通じる人となりなさい。人生に対するあなたの熱意を，生徒に伝えなさい。ただ熱意を感じるというのではなく，教えられた言葉から，生徒がさらに深いものを得られるように。あなたが自分で学んだものを教えることにより，生徒がさらに研究するための手がかりをたくさん得られるようでなくてはならない。準備していない時には感動がない。クラスで教えても，その状態は生徒全員に伝染するのである。

子供は，もともと好奇心が旺盛で熱意に燃えているものである。クラスで，みんなといっしょに経験する機会を与えられないと，生徒は教えられたことと関係のないことを自分ですることであろう。子供の創造性や熱意が正しく導かれないと，活動は敬虔さに欠け，散慢になり，つまらないものとなる。おおむね，人は興味の度合に応じて勉強するものである。ふつう我々は，強い印象を受けたことを一番よく覚えている。得たものも使わなければ，完全に自分のものになったとは言えないのである。我々は両親として，できる限りのことをして教師であるあなた方に協力したいと思っているが，我々はあなたのレッスンを準備したり，熱意や確信をあなたに与えたりはできない。

どうか，子供の活力を無駄にせず，準備をする時には，主題に気をとられず，生徒の気持をよく考えて準備してほしい。福音は人のためにあるのであって，教条のために存在しているのではない。救い主が，安息日は人のためにあるのであって，人が安息日のためにあるのではないと言われたことに，そのことが教えられている。福音の教義を真底信じているからといって，それで子供たちを二の次にしてよいわけではない。説いて教えることは，生徒たちがその教えを経験する時にはじめて効果を持つのである。

福音に生きなさい。教師の生活に福音が生きていなければ，子供に生きた福音を教えられるであろうか。教えられたことはとても実践できないといった気持を生徒に与えてはならない。我々は家で福音の教えを実践しようと努めてはいるが，息子が自分でする失敗のすべてを穴埋めできるものではない。息子は新聞，テレビ，映画や人々の態度など，いろいろな手段を通じてクリスチャンらしくない振舞いを見聞きしている。それらのことを，自分とは違う信仰の人たちがしていることとして，いつもそっぽを向いていることはできないであろう。子供は両親や教会指導者や，教会に集う人々を観察する。あなたの振舞いは見られているのである。教えが教師の生活や家族の生活に反映されていないならば，どうして教えが生徒の生活にとって意味を持つであろうか。

救い主の教えを，それを教える人々の行ないと区別して考えることは，なかなかできないものである。自分の過ごしている時間を振り返ってみると，我々は態度や外見に現われるよりもずっと深い病弊を若い人に植えつけているのではないだろうか。その危険は我々ひとりひとりの心に存在する。行動の基礎である価値判断の標準，人生に対する考え方と態度，確信の強さの程度，約束や抱負など。自分の経験やほかからの影響がまじりあって形成された我々の人生哲学から，若い人々は何かを得るのである。

最後に，あなた自身の若かった時代や過去の経験を忘れないでいなさい。その年頃に自分はどう感じ，どう考え，どう行動したかということを。生徒は，その年頃までの知恵や経験しか持ちあわせていないのである。「賢人の頭を少年の首にはのせられない」という格言は，子供がわがままになまけていてよいというのではなく，子供を十代の子として扱いなさいという意味である。我々はみな十代の時期を通り過ぎてきた。その経験を生かして，子供や生徒を理解しようではないか。

ぶどう園での働きに対して，すぐさま報いの返って来ないことが多いかもしれない。しかし，教師であるあなたは，生徒の尊敬と愛をかちえ，父親や母親の深い感謝を受けているのである。

共に進歩する幸福な結婚

J. ジョエル および
オードラ　コール・モス

自分があげたいというものでなく，彼女がほしそうなものをあげること

交際期間中，あなた方ふたりは，何をしている時が一番楽しかったですか。腕を組む時，散歩する時，買物の時，それともダンス，ピクニック，勉強の時，映画，演劇，スポーツを見る時，ひいきのチームについて話しあう時，政治や時事問題を語る時，食事に行く時，話をする時？愛することと同時に，あなたたちはいっしょに何かをして友情のきずなを強めてきました。

さて，やがてあなたたちは結婚をして，この友情はどうなったでしょう。ダンスが好きだったなら，結婚後いつまでダンスを続けましたか。最初の子供が生まれて夫婦の話しあいの時間が半分失われ，あとの半分は忙しい家事の話題であけくれました。いっしょに買物をして歩いたふたりなら，結婚後それはどれだけ続きましたか。最近ピクニックに行ったのはいつでしたか。歩いたり話したりすることが楽しみで，いっしょに散歩をしたのはいつでしたか。

結婚はさまざまな友情の形を土台にしています。愛がその背後に流れ，友情からふたりの関係をさらに深める新しいチャレンジが生まれます。伴侶との友情をはぐくむ交流の形は，ひとつずつ生まれては，盛んになり，やがて衰えていきます。そして，貴重な思い出として心の奥にしまわれます。

すばらしい友情を秘めた思い出の箱は，真に結婚を守るものです。しかし思い出は，それまで見てきたことしか生み出しません。ふたりの間柄をさらに発展させるために，私たちは新しい友情の形を築きあげる必要があります。

長年の間，ふたりは夫婦のみならずダンス友だち，旅行友だち，子供を共に育てる友だちでした。そのようなさまざまな形の友情は，ふたりの関係を密接にしてきました。しかしそれでも，まだ新しい友情の形を築かなくてはなりません。

ある女性が，「私たちはいっしょにライフルやショットガンや，やりや弓で狩猟をしてきました。川づりも海づりもゴルフもテニスも……。そのほかたくさん」と言いました。

しかし，あなたは今，発見して，楽しみ，やがてあきてしまったそのような活動以外に何をしていますか。来年は何をしますか。ふたりでしてきた活動のほかに別々の活動をしようとする時にも，夫と妻は互いに相手の活動に加わらなくてはなりません。

結婚において，夫婦はいつまでもお互いに関心を寄せあえる仲でなくてはいけません。外見的な魅力を保つ方法について，世間ではいろいろ言われています。たしかに外見の魅力も大切なことに違いありませんが，それよりも夫婦が互いに魅力ある人でいるためには新鮮な情熱を持つことです。姿かたち，会話，態度，感情，反応にその情熱は表われます。私たちは，だれもがふたりの新しい活動を計画する才能に恵まれているわけではありません。自分たち独自の活動を計画したいが，ほかの人の計画したことをする方が簡単だという人たちもいるでしょうし，いつもは進んで計画するけれど，あきたり疲れたりして，今度は妻に計画して

ほしいと思う夫もいるでしょう。それも良い考えですが，多くの場合，そのような人たちは活動の計画をしないままに終ってしまいます。あなたに率先して計画する能力があったなら，それを結婚の場に生かす責任があるのです。経験を共にして友情が深められていく間に，あなたの伴侶も，率先して活動する力を得ていくことでしょう。

夫と妻はそれらの経験を同じように受けとめているのではないということを忘れてはいけません。得るものは人によって違います。妻はふたりですることがさっぱりおもしろそうではない，とこぼす人たちがいます。しかしその状態をよく見てみれば，ふたり共楽しんでいます。自分が考えているようなやり方で楽しまないからといって，相手がつまらなそうだとこぼしているにすぎません。

夫婦の友情が大切だと述べたあとで次に，ふたりの関係を新鮮にし，発展させる方法について考えてみましょう。一週間ほどの旅行は心の若返る楽しい活動です。結婚生活には，時々このような気持を新たにする刺激が必要です。しかし，新鮮な友情を培うためには旅行しなくてはならないというのではありません。興味ある新しい活動を開拓していくこともできるのです。たとえば，スポーツをしたり，絵を書いたり，趣味や音楽を楽しんだり，際限ありません。私たちは時間やお金のないことを言いわけにする時がありますが，たしかにそうなのでしょうか。ばかげていると見られるようなことは避けたいといった気持が少しでもあるのではないですか。ローマの偉大な著述家キケロは，70代になってからギリシャ語を学びました。40才を過ぎた私たちの友人は，ピアノを習い始めました。

生き生きした情熱を生み出す第二の方法は，伴侶に質問することです。「でも，質問ならいつでもしています」と答える人がいるでしょう。たしかにそうです。質問はすてきなことではありませんか。「きょうはどんな具合？」「店に行って何を買いたいの」「あした車が使えるかしら」「ズボンの支度はすんでいるかな」。私たちは，6才の子に話しかけるような楽しい質問もします。

ふだんと違った質問をしてみてはいかがですか。「来年一番にしたいことは何？」「きょう一番おもしろかったことは何かしら」「君に喜んでもらえることをしたいんだけれど，どんなことかな」など。

このような質問から，生き生きした会話が始まります。夫の心を知らないで，彼についてもっと多くのことがわかるでしょうか。「でもあなたがあげたような質問はしたくない」とおっしゃる人も当然いるでしょう。しかし，このような質問でなくてもよいのです。あなたたちにふさわしい質問を考え出して下さい。一つの原則に従いさえすればよいのです。どんな質問も，相手に考えや感じたことを述べさせる質問であること。そのような質問でなければ，お互いの理解や進歩に役立つ，心を開いた会話は期待できません。夫婦間の最も意義ある交流は，お互いの感情を通わせるということです。

最後に大切なのは，結婚生活を活気づけるために，何かをする時間をとることです。することは何千とあります。夫婦が幾組か集まってブレーン・ストーミングを行なった結果，次にあげるような提案が出ました。あなたにそぐわない提案もあるでしょうが，ほとんどは何かの役に立ちます。読んでみて下さい。ゆかいな提案です。でも，それは結婚生活を良くするのに大切なことなのです。

あなたの結婚生活を楽しくする提案

夫にできること

- いつも威張っていなくてはならないと考えないこと。ちょっと泣いてごらんなさい。妻は母親のようにあなたを慰めてくれるでしょう
- 家に花があっても，妻に花を買って来ること
- 仕事の客に対すると同じように，妻に礼儀正しくすること
- 長年連れそってきた妻であっても，料理の文句は言わないこと
- 妻に助言を求め，時々はそれに従うこと
- やさしさはめめしさだと考えないこと。それは真実の力です
- 特別理由がなくとも，妻にプレゼントすること
- 自分があげたいというものでなく，彼女がほしそうなものをあげること
- 「このおかず，昼に食べたよ」というようなことは口にしないこと
- 話の肝心な個所では，合づちを忘れないこと
- 古いジョークを聞きなれた妻のために，新しいジョークを考えること
- 「きょう一日，何をしていたのだ」と聞かないこと

◦以上の項目を読み終えたら，妻の所へ行き，君と結婚してよかったと告げること

妻にできること

◦隣人に結婚して幸福なことを話すこと。その言葉は夫の耳にも伝わり，うれしく思うことでしょう

◦食事前に問題事を持ちださないこと。特に重大な失敗を話す時は，夕食のごちそうをとびきりおいしくすること

◦少なくとも子供や犬をかわいがる時のように，夫をやさしく，心をこめて扱うこと

◦夫の言葉の底を理解すること。「なかなかだね」という言葉は，「おまえ，今晩はすてきだよ」という意味かもしれません

◦時々は夫に愛のこもった手紙やメモを渡すこと

◦家庭をくつろげる安らかな場にすること

◦夫を家庭のこわい存在にしないこと。「おとうさんが帰っていらっしゃるまで待ちなさい」「おかあさんは良いと思います。でもおとうさんがいけないとおっしゃるでしょう」などと子供に言わないこと

◦夫にプロポーズの決心をさせた昔の自分の言葉や行ないを忘れず，もう一度実行すること

◦彼のしたいことを，年だからできないと言わないこと

◦「あなた，私を愛しているの」と聞かないこと

◦夫がこうだという時は信じること

ふたりにできること

◦時々，お互い初めて会ったように接してみること

◦ふたりの間ではおとうさん，おかあさんと呼びあわないこと。その呼び方はずっと年をとってからにして下さい

◦解決や一致を見ないうちに，問題をあとまわしにしないこと

◦就寝前にふたりで祈る時，自分たちの問題ではなく，もっと程度の高いことを考えてみること

◦いっしょにできるスポーツを始めること

◦いつも口論ばかりしている友だちから遠ざかること

◦たとえ家族のだれかが新車を事故でへこましても，笑いとばすこと——ひどい損害の時にも

◦時計をにらみながら一日を送らないこと。少し遅れた人をも，気持よく迎えて下さい

◦ふたりいっしょに怒るのは避けること

◦家族を大勢つくること

◦お互いのプライバシーを尊重すること

◦雨の中をふたりで散歩すること

◦問題を家族全員で話しあうこと

◦家族のアルバムをつくること

◦月に一度は，外でふたりだけの夜を持つこと

◦常に将来のための計画を持っていること。すること，買うこと，建てること……など

◦もしあなたの家に身内の人が同居しているなら，その人が時々ほかの人たちを訪問できるようにすること

◦私が，私に，私のなどとひんぱんに言わず，私たちは，私たちに，私たちのという言葉を使うように心がけること

◦お互いを人前でたてること。競争してはいけません

◦いつも薬を飲んでいる人なら，だれもいない所で服用すること

◦いっしょに食事にでかけること

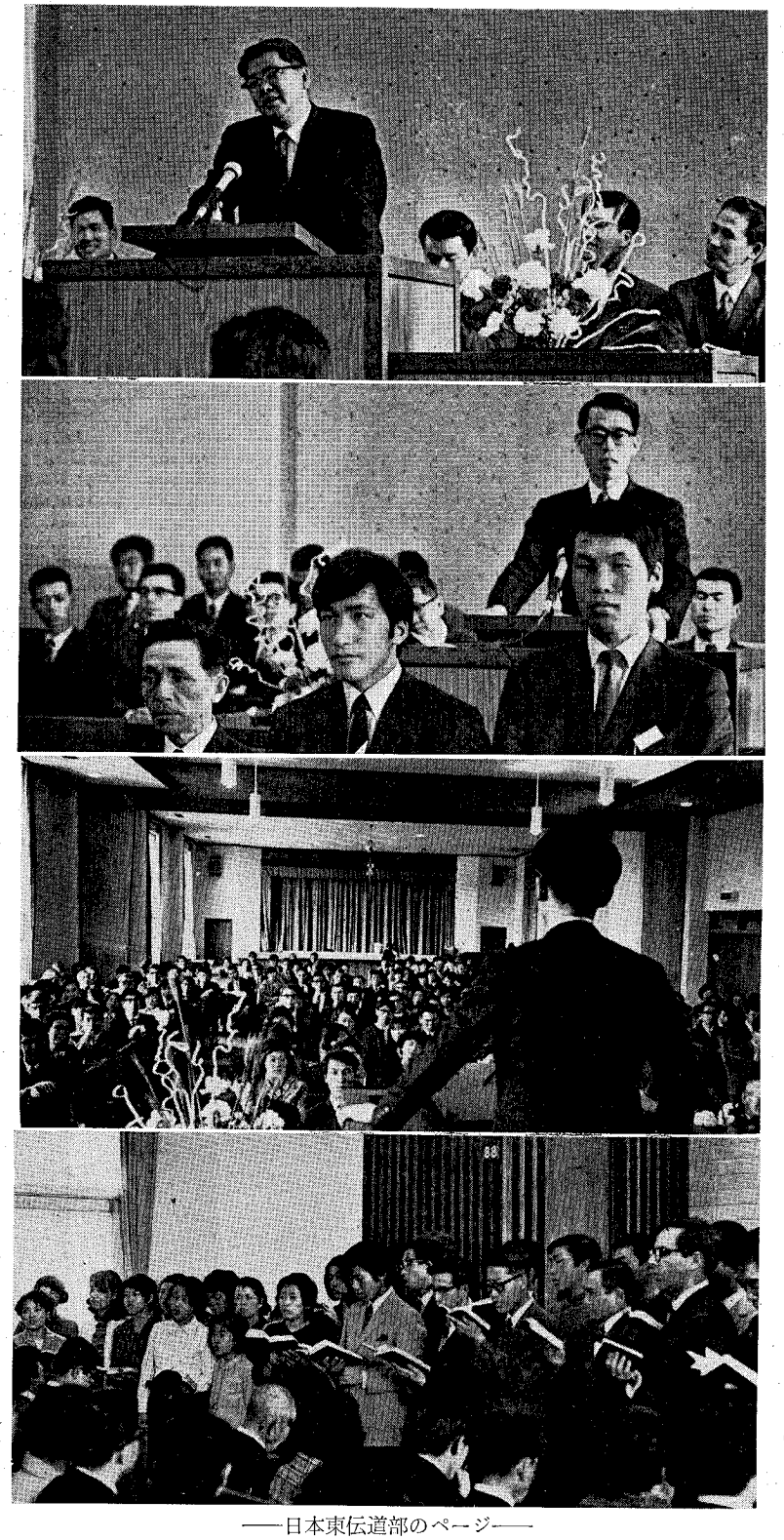
◦話をする時は，「良い夫だったらこうするのに……」とか，「良い妻ならこうするはずだ……」とか「どうこう言ったって，わたしはあなたのためを思ってしたのですから」などと言わないこと

◦行きたくないパーティーには行かないこと

北国に春を告げる

北海道地方部大会

長い冬も過ぎて，文字通りにすべての物が新しい息吹きをもって活動する北国の春が訪れた。この季節を象徴するかのように，去る3月16日，北海道，東北地方に新らたに日本東伝道部が誕生した。新伝道部長はユタ州プロボのブリガム・ヤング大学で教鞭をとっておられたラッセル・N・堀内長老である。学問に志す諸兄の多いこれらの地域にまことに適しい方を主はお遣しになられた。堀内部長の高い学識にも優るその人徳の深さ，柔和，謙遜な態度は，主が言われた「まさに研究と信仰とによりて学問を求むべし」という言葉の立派なお手本であり，新伝道部の兄弟，姉妹に多くの示唆と導きを与えずにはおかないであろう。いまだ興奮の覚めやらぬ4月25，26日堀内部長管理の下に，希望と抱負に満ちた北海道地方部大会が開かれた。無限の可能性とバイタリティを持つこの地で，兄弟姉妹一丸となり，山積する仕事と問題に取り組み，偉大な主の御業が急進する日を目前にするにふさわしい気魄に満ちた大会であった。北の地の聖徒たちが歓声を挙げてシオンに出で来る日も遠くはない。北国特有のねばり強い根性をもって，主の御国の建設に励む兄弟，姉妹の姿に，各地から声援を送って下さることを願ってやまない。



写真説明

（上段より）

① 謙遜な態度で語りかける堀内新伝道部長

② 新らたに長老の職に召された佐藤，宮本，若松の各兄弟

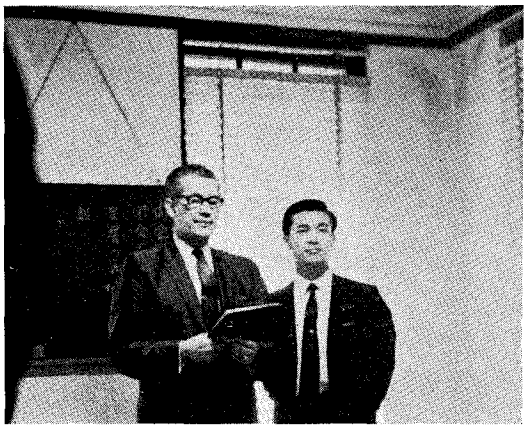
③ 鮫島札幌支部長の話に聴き入る兄弟，姉妹

④ 旭川支部による美しいコーラス

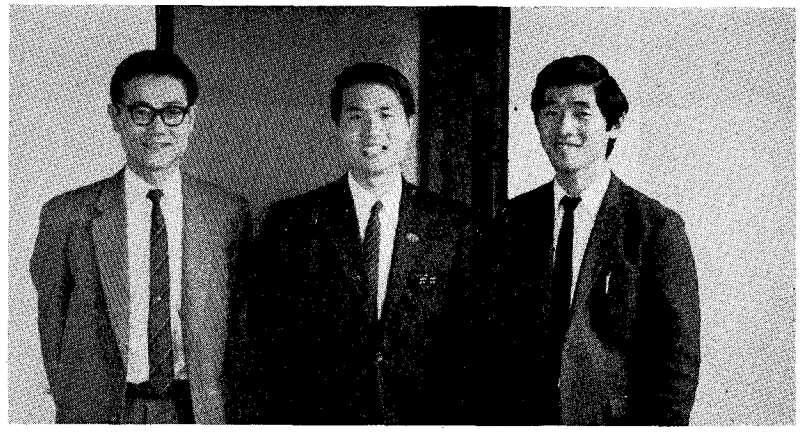
日本伝道部からのお知らせ

東海地方の躍動

静岡に新支部誕生



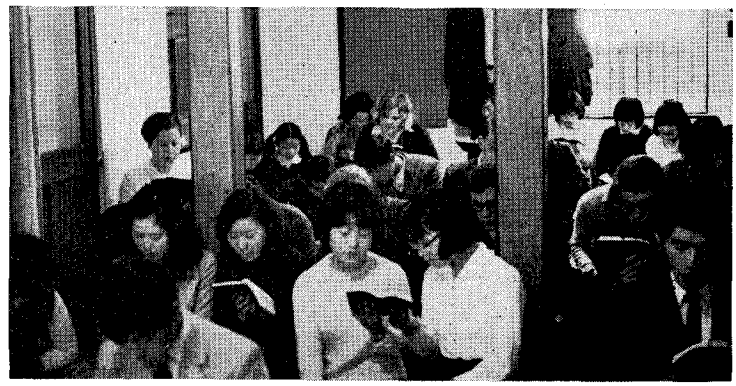
会員の支持をとられるビルス伝道部長



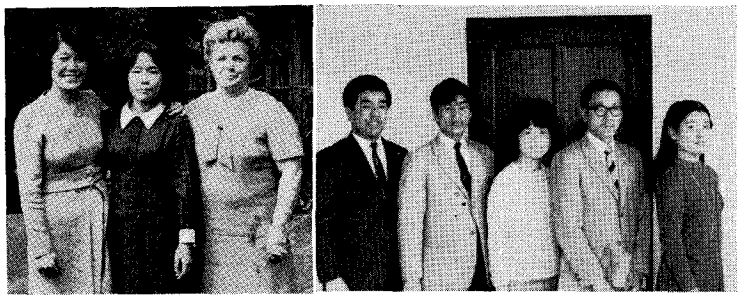
岡村　充見兄弟（第２副支部長）　青柳　長老（支部長）　滝波　末男兄弟（支部書記）

日本伝道部に於て，第５番目の支部が誕生しました。日本人に古くから親しまれてきた富士の山そして駿河湾，赤石山脈に囲まれた風光明媚な静岡。東海地方では名古屋に次ぐ大都市静岡に福音がもたらされたのは今から１年５ケ月前のことでした。宣教師の祈りは答えられ，充分に大きな家が見つかり，現在は約40名の兄弟姉妹が集うほど発展してまいりました。４月26日に，ビルス伝道部長御夫妻が訪れ正式に組織された支部長会及び他の役員達は次の通りです。

支　部　長	青柳弘一長老
第一副支部長	辻本泰明兄弟
第二副支部長	岡村充見兄弟
書　　記	滝波末男兄弟
YMMIA会長	望月申二郎兄弟



静岡の聖徒たち



久保恭子姉妹（伝道部扶助協会会長）　吉田みつ子姉妹（支部扶助協会会長）　ビルス姉妹

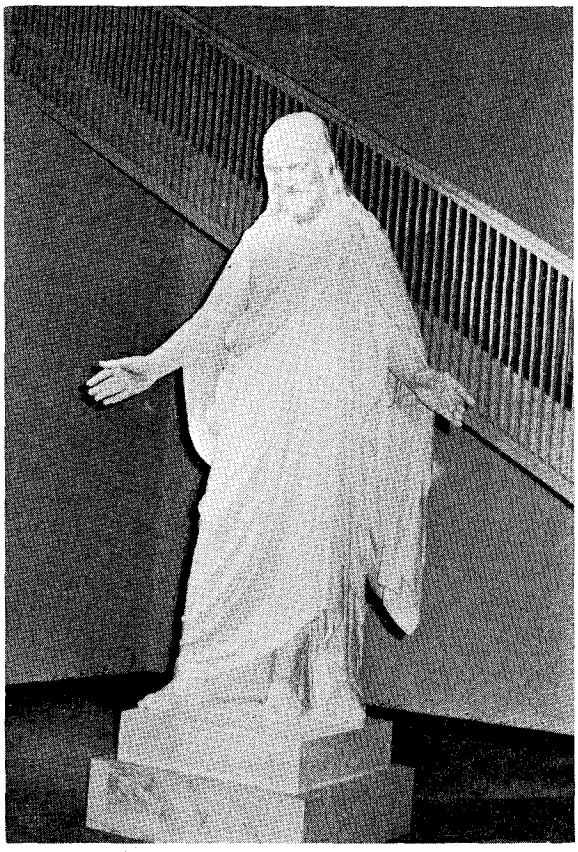
写真左より　神　田治兄弟（伝道部YMMIA会長）　永田一典兄弟（YM第一）　吉江真紀子姉妹（YW会長）　望月申二郎兄弟（YM会長）　伊藤亜美姉妹（伝道部YWMIA会長）

YWMIA会長	吉江真紀子姉妹
日曜学校会長	辻本泰明兄弟
扶助協会会長	吉田みつ子姉妹

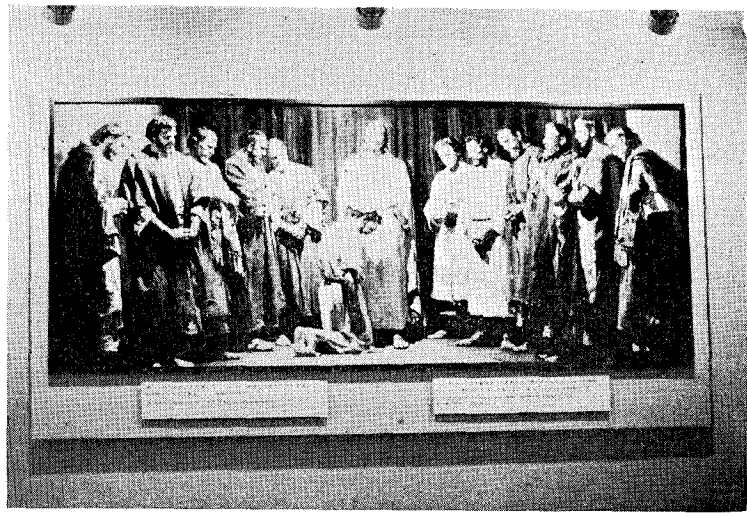
皆，とてもはりきっていらっしゃいます。

静岡支部の皆さん，日本伝道部はおろか，日本中があなた方の成長を見守っております。それ以上に神様がいつも暖かく見守っていて下さいます。あなた方は良い地にまかれた種なのです。あなた方の信仰と証と勇気とをもって，実を結び，30倍にも60倍にも100倍にも大きくなって下さい。そしてかつて，マシュー・カウリー使徒が予言したように，世界の民の間にあって義のしるしとなるように，お互いにがんばりましょう。

EXPO'70 モルモン館，プレスプレビュー開かる



＊高さ4メートルのクリスタス像（1階中央）



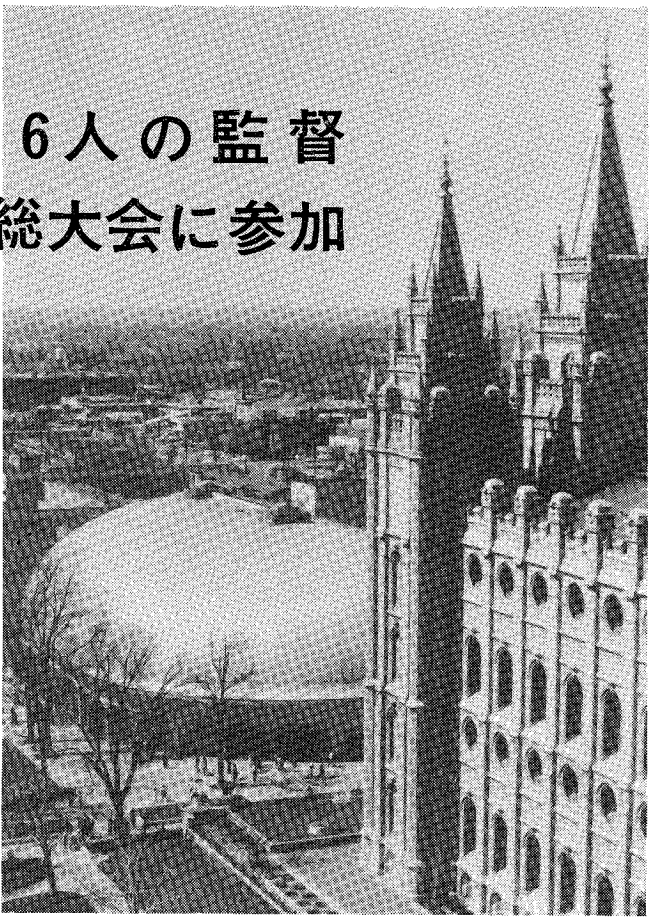
＊初期キリスト教会の紹介（二階第3の間）

＊渡辺兄弟の説明に聞き入る記者団

＊天使モロナイの塔とモルモン館

＊天地創造の紹介（二階第1の間）

去る3月4日　万国博記者室の各新聞社代表記者，2百数十名を招待して，モルモン館のプレスプレビューが盛大に開かれました。



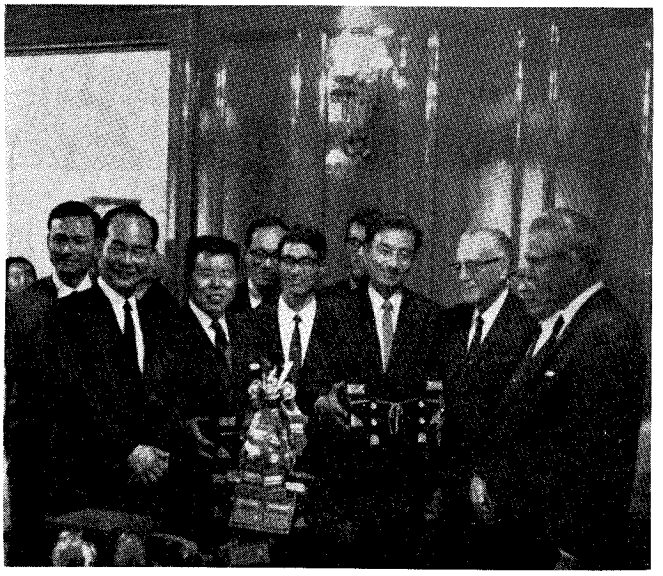
ステーキ部長と6人の監督
ソルト・レークの総大会に参加

4月4，5，6の3日間ソルト・レークで開かれた教会総大会に，田中ステーキ部長と6人の監督（今井，松下，井上坂井，神尾，浅間）が出席した。4月3日午後ビルス日本伝道部長御夫妻の見送りを受けて，東京を発ち，サンフランシスコ，ロスアンゼルスを経由し，同じ日付の夜，ソルト・レークに到着した。日本伝道部長であられたクリソード兄弟をはじめ，多くの兄弟・姉妹のご厚意により，各家庭へ泊めていただき，翌土旺日からの大会に参加した。

「地上に主の御業ほど大切な仕事はない」

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長

第140回年次総大会は，由緒あるタバナクルにおいて霊的雰囲気のうちに開かれた。この大会においては初代大管長ジョセフ・スミス，最初の見神150周年を記念するコンサートが開かれ，聖会においては，ジョセフ・フィールディング・スミスが第10代大管長に支持された。また新らたに4名の教会幹部，すなわち十二使徒評議員としてボイド K. パッカー，十二使徒補助として，ジョセフ・アンダーソン，デビド B. ハイト，ウィリアム H. ベネットが支持された。一行7名は，7つの大会に参加し，約40名の教会幹部より霊感あふれるメッセージを聴き，また20曲に及ぶタバナクル聖歌隊の合唱を満喫した。



とりわけ，マッケイ大管長を支持して以来19年ぶりに開かれた聖会において，十二使徒補助を含む教会の大祭司の一団と共に立ち，大管長会，十二使徒評議員会，大祝福師，十二使徒補助，七十人最高評議員会，管理監督会の教会幹部を順に支持した経験は，偉大な特権であった。新しい予言者が召される時に開かれるこの聖会は，1888年ジョン・ティラー大管長の時以来，連綿として行われてきた公式の集会である。6日の夕方，ベンソン長老の特別なはからいと大管長会の御好意により，大管長会会議室において大管長会と親しくお会いする機会に恵まれ，感激の一時を過した。また限られた時間の中で，神殿，福祉，教育等の教会プログラムの一端を自らの目で確かめることができたことや，帰還宣教師との再会はすばらしい収獲であった。

教育――その目的は？

リチャード　L．エバンズ

サミュエル・ジョンソンの言葉がある。「知識の伴わぬ高潔は弱くて役に立たず、高潔の伴わぬ知識は危険でおそろしい」。あたかも教育それ自体がそのまま目的であるかのように言われることもあるが、しかし、我々は常に探求の心をもって教育の目的を自分に問わねばならぬ。どのような目的をもって教育するのか、これはだれもが考える問題である。無論、目的は知識、技術、能力、理解を増すことである。しかし、それに人格と高潔を加えねばならぬ。それについて、考えてみよう。かりに悪と欺きとを助長する教育を人にほどこすとする。知識豊かな悪は、知識に欠けた悪よりも受け入れられやすいのではあるまいか。たしかにそうである。はるかによこしまで危険である。人格の伴わぬ才能、人格の伴わぬ力、人格の伴わぬ武器、さらに人格の伴わぬ言葉……。それについては以前に語った。人格に欠けるものはすべて危険である。教育も同様。教育は道徳の代りにはならぬ。安全で健全な社会とするためには、若者を教え導く際、人格や生活の調和をもたらすために、道徳、倫理、霊的なことをも加えて教えねばならぬ。ダートマス海軍兵学校長ディッキー氏は、「教育の目的は、人を能力と良心の両面において健全にすることである。なぜかと言えば、用い方を教えずに能力を生み出すのは、悪い教育だからである。さらに、能力は良心なしではいずれ崩れ去るしかないからである」[2]と言った。我々はヘンリー・アダムスの次の言葉を、もう一度考えてみよう。「教師の影響は永遠に及ぶ。彼はその影響のとどまるところを知らない」[3]。道徳と倫理が教育に加えられないならば、将来はおそろしいものとなる。「知識の伴わぬ高潔は弱くて役に立たず、高潔の伴わぬ知識は危険でおそろしい」。

1. サミュエル・ジョンソン、「ラセラス」41章（英国の詩人、評論家、1709―1784）
2. ジョン・スローン・ディッキー、ダートマス海軍兵学校長、「ジョン　E．ハイネス師のニューコメン説教」より引用、1968年1月25日
3. ヘンリー・アダムス、「ヘンリー・アダムスの教育」20章（米国の歴史家、1838―1918）

聖徒の道
1970年5月20日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ウォルターR．ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話（442）7438
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間 1,000円（外国4ドル50セント）
電報受信略号　「トウキョウ」マツジツ